

タイトル：家出した「六姉妹を拾って結婚した話」愛情に飢えてる少女と甘々ハーレムセックス
シナリオ：黒羽リズ

■トラック1

…茉弥、あとどれくらいお金残ってる？

いやー、もうほとんど残ってないよ。百円玉と十円玉が数枚ってところ。

これじゃあもうビジホどころかネカフェにすら泊まらないねー。

そうだよね…。

はあ…：やっぱり、考え無しで家出したの…間違いだったのかな。

いやいや、そんなわけないでしょ。家出して絶対正解だったって。

あのままあそこにいたら、あたし達何されてたか分かんないし…。

そうだよね…。

はあ…お母さん、本当なんであんな人と再婚したんだろ…。

昔からああだったでしょ。子供のことは放置して自分はひたすら男遊び…。

じゃなきゃ、『人の男に色目を使うな！』なんて言葉出てこないでしょ。実の娘に向かって。

ああ、もう本当クソ…腹立つ。

茉弥、女の子がそんなはしたない言葉使っちゃダメ。

…けど、実際問題どうしようかな…：バイトするにしても、限界はあるし…。

もっと一気に、手早くお金を稼ぐには…：やっぱり、援交…：とか…。

ちよ、お姉ちゃん早まつちやダメだから！ もしそうになったらあたし一人でやるから。

そんなの駄目に決まってるでしょ！ 妹にそんなことさせられない…。

はあ…やめよっか…：こんな大変な状況で言い争っても、何も進展しないし…。

そうだね…。

…ん？ …ねえ、お姉ちゃん…

ん…？

…えっと…わ、私達に、何か用ですか？

…ちよつと、訳アリというか…今家出中で、泊まる場所に困ってるというか。

お姉ちゃん、わざわざ馬鹿正直に言う必要ないでしょッ。

あつ、そ、そっか…！ ごめん…。

と、とにかく、あなたには関係のないことなので…！

私たち姉妹の問題なので、放っておいてください。

…え？

…お兄さん、今聞き間違いじゃなければ、家に来ないかって言った？

やめとこうよ、茉弥。これ…絶対に身体を求められる。

そうじゃなきゃ、見ず知らずの私達をかくまってくれるなんて、そんな都合のいい話…。

まあ、そりゃそうだろうけど…でもお姉ちゃん、もう丸一日まともなものを食べてないから、

お腹ペコペコでしょ？ あたしももう正直限界。

だから…まあ凄く不本意だけど、ついてくことにしようよ。

仮に身体を求められても、ご飯やお風呂くらいは提供してもらえるでしょ？

…そうだね。茉弥の言う通りかも。

…それにいざとなれば、私一人が身体を差し出せば…。

あつ、ううん、何でもないよー！ ねっ、お姉ちゃん。

う、うん。

えっと、それじゃあ申し訳ないですが…お世話になってもいいですか？

…はい、ありがとうございます！ お礼と言ってはなんですが、私…なんでもしますから。

お姉ちゃんはやめといったほうがいいよ、色々と不器用だから。

何かさせるならあたしの方がおすすめ。お姉ちゃんと違って色々と器用だからよ。にひひ。

ここら、茉弥…！

それじゃあお兄さん、おうちまで案内よろしくね！。

も、もう…。

はあ…どうか、何事もなく終わってくれますように…。

■トラック2

茉弥、洗い足りないところない？

もう、子供じゃないんだから大丈夫だってば！。

ふふっ。じゃあ流すよ？

うん、おねがうい。

…うん、すっきりしたね。…じゃあ、せっかく用意してもらったし…。

お風呂も、いただいちゃおっか？

わゝ、久しぶりのお風呂ゝ。

はあゝ…生き返る…。

ここ最近、ずっとシャワーだけだったもんね…。

あゝ、やっぱりお風呂に入れるって最高…。

…でも、びっくりだね。あたし、家に着いた瞬間即抱かれるものだと思ってたけど…。ちゃんとご飯も食べさせてくれたし…お風呂まで用意してくれて…。

…あの人、もしかしたら本当にただの親切心で、私達のこと…。

いや、それだけは絶対にありえないでしょ。

だって、そうしたら向こうに何のメリットもないじゃん。

見ず知らずのあたし達を泊めてあげるなんてさ。

下心は絶対ある。男なんてみんなそんなもんだし。

下半身と脳味噌が直結してるんだよ。はー、やだやだ、だから男って奴は…。

だからそういう下品なことは…。

…うん。でもまあ、そうだよな。茉弥、いい？

いざとなったら、私のことは置いて逃げていいから。

はあぁっ？ お姉ちゃん何言ってるの？ そんなことできるわけないじゃん。

いいよ、セックスの相手ならあたしがするから。お姉ちゃんが傷つく必要なんてない。

姉妹だったらこういう時こそ助け合いでしょ。あたしに任せてよ。

た、助け合いって言うんだったら、それこそ私に任せてよ。私はお姉ちゃんなんだよ？

姉として、妹を守る義務があるの。

妹を差し出して自分だけは助かるなんて、そんな恥知らずな真似はしたくない。

そんなのあたしだって同じだよ、お姉ちゃんに傷ついてほしくない！

大体お姉ちゃんはいつも…。

茉弥だって…っ、ああ、もう、やめよう。いたちごっこだよ、こんなの…。

うん…ごめん。ちょっとカッとなっちゃった。

………とりあえず、出よつか、お風呂。

そうだね…お互い、覚悟だけは決めとこっか。

…うん。

お風呂、ありがとうございます。

ありがとね、お兄さん…って、何してるの、お兄さん？

お布団…二人分も用意してくれて、ありがとうございます…。

…え、でもこれって…？

あ、あれ？ ちょ、お兄さんどこ行くの？

…べ、別の部屋で寝るって…何で？

……セックスしないんですか？

え、そこまで取り乱す…？ もしかしてだけど、お兄さん…。

本当にそういうつもり無かったの？ 下心とか、一切？

…本当に、ただの親切心で私達のこと助けてくれたんですか？

でも、どうして？…あなたには、何のメリットもないはずなのに…。

…そっか。お兄さんも、あたし達と同じだったんだね。

…はい。私達も、親の再婚をきっかけに、家を飛び出してきたんです。

義理の父から性的な目で見られて、お母さんから、理不尽なと言われて…。

お互い、親の勝手で居場所を失くした者同士だったってことか…。

大変だったんだね、お兄さんも。

そうとも知らずに、ごめんなさい…。

私達、勝手に抱かれるって思いこんで…。

そういう境遇があったとはいえ…お兄さんみたいに親切な人がいるとは思わなかったよ。

男なんてみんな、女とやりたいたけのケダモノだと思ってたから。

こゝら、茉弥。

なにー？ お姉ちゃんだってそう思ってたでしょ？

う、うう…それはまあ、否定できないけど…

でも良かった。お兄さんがそういう人で。

私達、どっちが抱かれるかでさっきまで喧嘩してたくらいなんだよ。

当然でしょ。茉弥は、たった一人の大切な妹なんだから…。

それは私にとっても同じ。お姉ちゃんは、私の大事な家族なんだから。

…は、はい。姉妹仲がいいのは、ちょっとした自慢です。

うん。ずっと一緒だったもんねー。

……大変なことになっちゃったけどさ。これからもずっと、一緒にいられるといいよね、お姉ちゃん。

…そうだね。とりあえず、明日からまたどうしよつか…。

…あつ、こゝめんなさい。こんな暗い話…。

……え？ いいの？ お兄さん。

で、でもそんな、居候なんて…なんだか、申し訳ないです。

行く当てがなくて困っていたのは、確かですけど…。

えー、お姉ちゃん、いいじゃん。せつかくお兄さんもこう言ってくれてるんだしさ。

断る方が失礼してもんでしょ。ね、お兄さん？

こゝら茉弥、図々しいでしょっ。

それに…あたし、お兄さんのことは信用できる気がするの。

同じ境遇だからっていうのも勿論あるけど…。

それ以上に、お兄さんは他の男とは違うって感じがするの。

何となくだけど。

それは…まあ、私も同じ考えけど…。

……あの。本当にいいんですか？…（迷惑じゃ…ないですか？）

…分かり、ました。そ、それでは、その…不束者ですが、お世話になります…。

も…、お姉ちゃん固いつてば…。

お兄さん、これからお姉ちゃん共々よろしくね。

…ふふふつ、私達三人、何だか上手くやっていけそうな感じがするねっ。

そうかな…？ …ふふ、そうだいいな。

お兄さん、これから長い間…よろしくお願いしますね。

■トラック3

…うん、塩加減はこんなものでいいかな…。

あつ、いけない。そろそろお兄さんのこと起こさないと…

茉弥、悪いんだけど、お兄さんのこと起こしてくれる？ 私今ちよつと手が離せなくて…。

はいはい！ お任せあれ…

おーい、お兄ちゃん。朝だよ…。

お布団が恋しいのはよく分かるけど、そろそろ起きないと会社遅刻しちゃうぞ…。

…むむ。全然起きないや。こうなったら…。

必殺…、こちよこちよ攻撃…。こちよこちよこちよこちよこちよ…。

「こらあ、茉弥……！ またお兄さんにいたずらして。

だって、こうしたらお兄ちゃん絶対起きるんだもん。こちよこちよこちよ。こちよこちよ……あれ？ おかしいな、今日は全然起きないや。

うーん、疲れてるのかな。めっちゃ熟睡って感じ。

ねー、お姉ちゃん。お兄ちゃん全然起きないんだけど。どうしよー。

えー……？

……あ、本当だ。お兄さん、ぐっすりだね。

でしょ？ どうするー？ 叩き起こすのもかわいそうだし。

うーん……でも、このままだと会社に遅刻しちゃうし…。

あつ、そうだ。こうすれば、嫌でも起きるんじゃないかな。

ふうふうふう……ふうふうふうふうふうふう……。

ちよ、茉弥、何してっ…。

あつ、今お兄ちゃん動いたよ。ふうふう、お姉ちゃんもやってみなよ。

多分これ続けてればお兄ちゃん起きるからさ。

え、えー？ でもお…。

お兄ちゃんが会社遅刻してもいいの？

う、う…分かったよお。

お、お兄さん……？ 早く起きないと、遅刻しますよ…？

……ふうふうふう……ふうふうふうふうふうふう……

おつ、いいねえ、お姉ちゃん。その感じその感じ。

ほらー、お兄ちゃん。早く起きないとずっとなふうふうしちゃうぞー。

…もちろん、エッチなこととかもね？

もう、茉弥ったらまたそういうことを臆面もなく…。

…あつ、そろそろ行かないと！ それじゃあお兄さん、行ってきます。

行ってきましたーす！ お兄ちゃんもお仕事頑張つてね！。

茉弥く。あんまりお兄さんをからかうようなこと言っちゃダメよ？

お兄さん、困つてたじゃない。

えー、いいじゃん別に。お兄ちゃん、あたし達にとって命の恩人なんだよ？

こんな見ず知らずの姉妹を無償で助けてくれて…。

だったら、エッチなことの二つや二つゝって普通は思わない？

それはそうだけど…だからって、あんな直接的な…。

ていうかさー。

ん？ 何？

お姉ちゃんって、お兄ちゃんのこと好きなの？

なっ……す、好きって…いいや、それは……勿論、その…えっと…。

き、嫌いではないというか…感謝しているというか…

あたしはお兄ちゃんのこと好きだよ。

えっ…。

勿論、恋愛的な意味で。お兄ちゃんのこと、男性として好き。

そりゃ好きになるよ。これだけ優しくされて、大事にされたらさ…。

親から大事にされなかった分、余計に。

…お姉ちゃんも、そうなんじゃないの？

…うん。私、も…お兄さんのこと、好き。…いつの間にか、好きになっちゃってた。

ふふーん。やっぱり。同じ人を好きになるなんて、あたし達やっぱり姉妹だね。

…ふふふつ…そうだね。私達らしいかも。

それならさー、お姉ちゃんももっと積極的にお兄ちゃんにアタックしていかないと！

いつもいい子ちゃんぶってさー。

たまには後ろから抱き着くとか、手を握るゝ、くらいしてみたら？

む、無理無理無理！ 私、茉弥と違ってそんな積極的になれるタイプじゃないし…！

そんなこと言ってる場合…？

うかうかしていると、あたしがお兄ちゃんのこと独り占めにしちゃうぞ…？

う、うう…茉弥の意地悪…。

あはは、冗談だつてゝ。

………あゝ、でもさ。あたし達がお兄さんのこと好きだつてわかったのは別にいいんだけど…、

一つだけ気になることがあるんだよね。

それって、どんな？

この前学校の帰りにさー。

見ちゃったんだよね…お兄ちゃんが、知らない女の人と歩いてるところ。

えええつ…！？ そ、それって、もしかして…彼女…？

わかんない。でもスーツ着て、お兄ちゃんと同じ年くらいの人だったからそうかも。

そ、それじゃあ…私達の好意なんて、迷惑なんじゃ…。

ううん、まだ諦めるのは早いよお姉ちゃん。彼女って決まったわけじゃないし…。

だから今日の夜、お兄ちゃんに確かめるの。一緒に歩いてた女の人、誰？つて。

ええええっ…！？ ま、またそんな直接的な…。

でも、そうだね…ちゃんと確かめないと…私、お兄さんの恋人になりたい…！

おお、お姉ちゃんがいつになくやる気だ！ よーし、それじゃあ作戦の決行は今晚ね！

あたし達姉妹、絶対お兄ちゃんの恋人になってみせるぞー！

おー…！

おー！

■トラック4

お兄ちゃん、おかえりー！ 待ってたよ

カバン、預かりますね…。

…えっ、あ、はい、待ってたっていうのは、その…ちょっと、お兄さんに聞きたいことがあって…。

…ねえ、お兄ちゃん。ちょっと前にさ、女の人と一緒に歩いてたでしょ？

あれって誰？

…とぼけないでよ！ ほら、二三日前くらいにさ。

夕方頃、一緒に歩いてたでしょ。スーツを着た、お兄ちゃんと同じ年くらいの女の人。

も、もしかしてその…彼女さん、だったりするのでしょうか…？

…な、なんだ、ただの職場の同僚か。びっくりした。

ということは、彼女さんとかではない、ということですよ…？

良かったあ…。

…あつ、ち、ちなみにお兄さんって今…彼女さんとかって、いたり、します…？

いいから答えてよお兄ちゃん。減るもんでもないでしょ？

それに、あたし達もう家族みたいなものなんだから。家族に隠し事は無し。

そ、それで…どうなんですか、お兄さん…？

……そっかゝ！ いないんだあゝ、良かったゝ！

…ふうう…良かったあ…。

え？ いや、そりや気になるよ。だって、あたし…。

私、お兄さんのことが好きですから。

うわっ、お姉ちゃんに先越されたっ。いつもは消極的なのに…。

…まあ、そういうこと。あたしも、お兄ちゃんのことを好き。

好きな人の恋愛事情が気になるのは、当たり前でしょ？

分かってます。私達はまだ子供で、お兄さんは立派な大人…。

釣り合わないことも。仮に恋人になれたとして、世間から、冷ややかな目で見られてしまうことも…。

それでも…お兄さんの気持ちが聞きたいです。

お兄ちゃんは、あたし達のことどう思ってる？

あたしはね、あたし達はね…お兄ちゃんと、恋人になりたいと思ってるよ。

お兄さんの気持ち…聞かせてください…。

お兄ちゃんの気持ち、聞きたいな…。

っ……お兄さん…今の、本当ですか？ 私達に気を遣って、とかじゃなくて…？

お姉ちゃん。お兄ちゃんは、そんな残酷な嘘はつかない人だよ。

だから…えへっ。今の言葉、信じていいんだよね？ お兄ちゃん。

…はい、ありがとうございます、お兄さん…私も…私達も…お兄さんのこと、大好きです

えへへ、お兄ちゃん、大好きだよゝ

あつ、茉弥…え、えつと…お兄さん、私も…いいですか？

…は、はい。それじゃあ…お言葉に甘えて…。

ぎゅうう…えへへ…お兄さんの腕…温かい…。

えへへっ…あつ、でもあたし達の関係ってさ。

世間で言うところの、二股ってことにっちゃうのかな？

そ、それは嫌だな…。

で、でも、できればお兄さんには、私達二人を恋人にしてほしいですし…。

どっちか一人だけ、とか嫌だもんね。

お兄ちゃんも、あたし達のどっちかじゃなくて、二人とも好きってことだもんね？

にひひっ、お兄ちゃん、欲張りさんだね。

こ、こら茉弥、からかわないの。

……え？ ……ふふ、確かにそうですね。

誰かに公言するわけでもないですし…この関係は、私達だけの秘密、ということ…。

あたし達自身が納得してるなら、それでいいよね。

仮に外野に何言われても、あたしたち自身が幸せならオールオッケーだもんね。

お兄さんもそれでいい？ 三人で恋人、ってことで。

……はいっ、それじゃあ今日から私達…恋人、ですね…えへへ。

やった。それじゃあこれからは、お兄ちゃんに堂々とベタベタできるってわけだ。

もう、茉弥ったらすぐそうやって…。

でも、ふふ…そうですね。私達もう、恋人ですから…。

今まで以上に甘えちゃっても、問題ないですよね？

ふふっ、そうそう。お姉ちゃんもそうやって積極的に責めていかないとさー。

いつかあたしにお兄ちゃん取られちゃうからねー！

そ、そうならないように頑張るもんっ。

そ、それじゃあお兄さん…改めて…。

これから、よろしくお願いしますね。

これからもよろしくねっ。

■トラック5

えへへー、お兄ちゃーんっ。

もう、茉弥…髪くらい乾かしなさい。

いいじゃーん、今日くらい。

お兄ちゃんとスキンシップ取りたかったんだもん。

取りたかったんだもん、って…毎日取ってるでしょ。

もう、ベタベタして…お兄さん、すみません…嫌なら嫌って言うてもらっていいですからね？

はー？ 嫌なわけないでしょ、あたし達恋人なんだよー？ ね、お兄ちゃん？

ていうか、お姉ちゃんが遠慮しすぎなの。

前も言ったけど、あんまり消極的だとあたしが、お兄ちゃんのこと取っちゃうからね？

わ、私だっけいつか…。

あはは、お姉ちゃんがまた一人でぶつぶつ言ってる。

あたし達はその間に、イチヤイチヤしてよっか、お兄ちゃーん。んふ。

そういえば、お兄ちゃんさ。あたし達とセックスしたいとかって思わないの？

なっ——ちよ、ま、茉弥！　なんてこと聞いて…。

えー、だってさ。あたし、こういう感じで毎日お兄ちゃんにスキンシップ取ってるのに、

全然そういうことされる素振りないし…。

それどころかお兄ちゃんさ。オナニーしてる様子すらないじゃん？

もしかして性欲自体無かったりする？　それとも…実はソツチ系の趣味だったり？

女には欲情できない、的なの？

え…ま、まさかお兄さん、そうなんですか…？　女の私達じゃ、興奮できない…？

…ってそれは流石に考えすぎでしょ…！　お兄さん苦笑してるよ…！

ま、どちらにせよこれは確かめる必要があるかな、っと…！

ちよ、ちよつと茉弥！？

にひひっ。お兄ちゃんのこと押し倒しちゃった。

そっちらから手を出さないなら、あたしの方から手を出しちゃうもんね。

お兄ちゃんがちゃんと女の人で興奮するかどうか…確かめてあげる。

覚悟してね…お兄ちゃん？

はあむっ…んじゅぶっ、じゅぶ…ちゅるるっ、ぐちゅ…ちゅぶうっ、ちゅう…

えっ…！？　ま、茉弥…！？　うわ、そ、そんな…お兄さんのお耳、舐めてっ…。

んちゅぶ、じゅる、ちゅるるっ…男の人って、こういうの好きなんですよ…？

女の子に、ぺろぺろ…奉仕されるの…ん、じゅぶ、ちゅるるっ、くちゅ、ちゅぶ…。

あは、お兄ちゃんも好きなんだ？　耳の溝、ぺろぺろ…ってするたびに、肩がピクピク震えてる。

んちゅぶ、じゅるるう、ちゅぶ、れろれろ、くちゅっ…じゅぶ、ちゅ…。

ちゅぷ、じゅるるう、くちゅっ、ちゅぷ…い、言われなくても、そうするもん…。

んじゅぷ、ちゅる、くちゅ、ちゅぷぷ、ぐちゅ、ちゅっ、ちゅるうっ、ちゅるうっ、ちゅぷぷ…。

どうですか、お兄さん…？ 私の耳舐め…気持ちいいですか？

初めてなので、その…上手くできてるか、分かりませんが…。

ちゅぷっ、じゅるるっ、くちゅうっ…ふふ、大丈夫だよ、お姉ちゃん。

お兄ちゃんのこと…ちゃんと反応してるから…。

う、うわっ…お兄さんの、大事なところ…さっきより、大きく膨らんでる…。

あ、あの…苦しく不是吗…？ スポーンに圧迫されて、とても痛そう…。

じゃあさ、脱がしてあげようよ、お姉ちゃん。

ほら、ベルト外すの手伝って。

え、ええっ…？ えっと、その…い、いいんですか…？ お兄さん…。

止めるなら、今の内ですよ…？ じゃないと、私…うう…。

お姉ちゃん。

そんな止めて欲しくなさそうな目で見たらお兄ちゃん何も言えなくなるって…。

ベルトもしっかり外そうとしてるし。

だ、だって…あっ、外れちゃった…。

にひひっ。それじゃあズボンとパンツ脱がそっか。ほらお兄ちゃん、ちょっとだけ腰浮かせて。

ごめんなさい、お兄さん…私達、ちょっともう…止まれそうにないです…。

うわ…あはは…お兄ちゃんのおちんちん、すっ…滅茶苦茶大きくなって、反り返ってる。

男の人の、これって…興奮すると、こんな感じになるんですね…う、うっ…。

あ、お姉ちゃん今喉鳴ったよう。ドスケベ…。

なっ、う、うるせーっ。そーいう葉弥だって、顔真っ赤にして…。

それはお姉ちゃんも同じでしょ？

だって…ふふふ、興奮してるんだもん。

ね、お兄ちゃん…じゅるるっ、ちゅるるる…へちゅ、ちゅるる、ちゅるる、ちゅるる…。

んれろっ、んれろっ、じゅるる、じゅるる、じゅるる、じゅるる…。

くちゅっ、んうっ、じゅるる、じゅるる、うんっ…。

くちゅっ、んうっ…ちゅるる、は、は、は、は…。

あっ…私も…ん、ふう、ちゅるる、じゅるる…ちゅるる、へちゅるる、ちゅるる、ちゅるる…。

くちゅ、ちゅるる、うっ、ちゅるる、じゅるる、ちゅるる、うっ…。

ねえ、お兄ちゃん。このガチガチに大きくなったおちんちん…触って欲しい？

耳だけろろっって舐められるの、気持ちいいけど切ないよねえ？

んちゅぶ、じゅる、くちゅうっ、ちゅるる…んっ…あたし達のお手々で、

シコシコっってされたいよねえ？

はむ、んちゅうっ、ちゅぶ…じゅるるっ、くちゅ、ちゅう…どう、なんですか…？

お兄さん…私達に…お、おちん、ちん…気持ちよく、してほしいですか…？

私は…いいですよ。お兄さん相手なら…エッチなこと、しても…。

…ううん、私…お兄さんに、してあげたいです…エッチなこと…んむ、じゅぶ、ちゅるる…。

ちゅぶっ、じゅるるっ、くちゅうっ…うん、あたしも…お兄ちゃんの勃起おちんちん…。

触らせて…？ あたし達のおてで、気持ちよくしてあげたいのっ…。

んむ、ちゅぶ、じゅるる、じゅるる…ちゅへちゅ、ちゅるる、じゅるる、うっ…。

あっ…ふふ…お兄さんも、触って欲しいんですね…分かりました。

それじゃあ、茉弥…一緒に触ろ…？ お兄さんのおちんちん…。

えっと…ど、どうやって触ればいいの…？

んー、実はあたしもよく分からないんだよねー。一応…ういう日が来てもいいように、

ネットでかるく調べてはいたんだけど…。

まあ、百聞は一見のなんとかって言うし、

実際にシコシコしてあげながら考えていこ。

そんなアバウトな感じでいいのかな。

大丈夫だよー。結果気持ちよければオッケーだし。ね、お兄ちゃん？

なんか嫌な感じしたら、すぐに言ってね？

それじゃあ…お兄ちゃんのおちんちんにー…。

指を、優しく絡ませて…えいっ。

私も、そつと触りますね…ん、ふうっ…あ、お兄さんのおちんちん…すっごく熱い…。

す…おちんちんってこんなに熱いものなんだ…ん、ふうっ…下手したら、ヤケドしちゃうぞう。

じゃあ…私は真ん中から上の方をシコシコするから…。

あたしは、根元の付近をシコシコしてあげるね。ほーら…。

し…し…し…

し…し…し…

し…し…し…

し…し…し…

あつ、んんっ…す…いっ…おちんちん、生きてるみたいに…ビチビチって震えて…。

はあっ、はあっ…ん、んふうっ…。

えへへ、お耳舐めてあげた時よりも反応してる…。

やっぱり、おちんちん直接刺激してあげた方が気持ちいいんだ？

ふふ…根元のところ、指で何回も、優しく擦ってあげるね…。

שנינו נאמר.

১৮৭৬।

あ、ふう…先っぽ…凄くピクピクしてます…指で撫でてあげると、どうなるんでしょうか…？

…っ、ん、ふあぁっ…！ 透明な液が、垂れてきました…これって、カウパーってやつ…？

うわ、お姉ちゃん真面目ぶっておきながら、そういう知識は持ってるんだ。

ふふふ、むつつりすけべ。

ち、違うもんっ！ 私は、そういうんじゃ…う、うう…お兄さん、違いますからね？

私、スケベなんかじゃ…。

あたしは、お兄ちゃんのこと気持ちよくできるならスケベでも何でもいいけどね。

ほらあ、お兄ちゃん…おちんちんしこしこしながら、またお耳ぺろぺろしてあげる…。

ん、ちゅづづづ…じゅづづ、くちゅ、ちゅづづづ、ちゅづづづ…ちゅづづづ…。

んっ、ふうっ…！ 先っぽ、ぶるぶるって震えた…。

お兄さん、お耳舐められながらのしこしこ、気持ちいいんですか……？

じゃあ、私もやってあげますね？ ん、ふうっ……ちゅぶ、じゅぶぶ、くちゅっ、ちゅぶうっ……。

ちゅぶじゅぶ、じゅるるっ、くちゅうっ、ちゅぶぶ、ちゅう…。

ん、ふうっ……んっ……お兄ちゃん、根元のところをさく。こうやって、指で作ったわつかで…。

ちゅこちゅこ〜ってされるのどう？ 気持ちいい？

…あはっ、腰震えちやつてる。

感じすぎちゃうんだ。ふふ、感じてるお兄ちゃんかーわいい…もっとやっちゃえ…。

ちゅーちゅーちゅー…ちゅーちゅーくむつ、じゅぷくちゅ、ちゅぷるるるるるるっくちゅっ。…。

じゅ、ちゅ、くちゅ、ちゅ、じゅ、ちゅ、ちゅ、ちゅ、ちゅ。…。

ちゆるっ、ちゆるるるっ、んちゅうっ、ちゅううっ、んはあぁっ…。

お兄さんの射精欲が、高まるように…先っぽのところ…親指でなでなでして、刺激してあげます。

ん、んふづつ……ふづつ……どうですか……？ 指の腹で、くりくりされちゃうの…。

ゾクゾクしてしまいます？ 気持ちいいの、上がって来ちゃいますか……？

ん、ちゅぶうつ、じゅるる、くちゅ、ちゅぶうつ…。

ふふ…根元だけじゃなくて…お兄ちゃんは、こっちも感じるのかな？

ほら、たまたまのところ…痛くならない程度に、軽く揉み込んであげたり…。

指でくすぐるみたいに、こちよこちよこちよ……って…。

ふふふ、たまたまこちよこちよされるの効いちやう？ 腰持ち上がつちやつたね。

んふふ、かーわいい…ちゅふ、じゅるる、ちゅふづつ、れろちゅふ、れろれろちゅぽつ、

れろ、じゆるる、れろれろ、ちゅう…。

ん、ふづつ…亀頭のところ…なでなでしたら…ぷくうって、膨らんできましたね…。

もしかして、射精しちゃいそうなんですか…？
気持ちいいおしる、ぴゅるるゝって出ちゃいます？

んむ、じゅぶ、ちゅるるっ、くちゅ、ぐちゅぐちゅ、ちゅぶ、じゅるるっ、じゅぶ、んちゅうっ。

ちゅぷっ、じゅるる、くちゅ、ちゅぷうっ、じゅるるうっ…。

はあ……いいよ……出しちゃえ、出しちゃえお兄ちゃん……。

「またまた弄つてあげるから……ほくら、もみもみ、さわさわ……こちよこちよ……つて……」。

お姉ちゃん。お兄ちゃんのおちんちん、根元から先っぽまで、しこしこしてあげて♪

分かった…♪じゃあ、葉弥は、お兄さんのたまたまを気持ちよくしてあげて。

にひひつ、りよーかい…お兄ちゃん…もう出ちやいそうなんでしょ？
我慢しないでいいんだよ。いっぱい出しちゃえ。

たまたまの中でグツグツしてる精液…びゅるるゝって出しちゃえ…。

気持ちよくイけるように、沢山たまたまいじってあげるから……ほら、あたしの指感じて……？

もみもみ……さわさわ……ちよちよって……ん、ふうっ……。

くちゅ、ちゅづうっ、じゅるる、くちゅう、ちゅづ、じゅる、くちゅう、ちゅづ、じゅる、

ちゅぶ、じゅる、くちゅ、ちゅぶうっ、じゅるる、くちゅう、ちゅぶ、ちゅぶうっ…。

はあつ、はあ……お兄さん……息、荒くなってきてますね……精子、すぐそこまで上ってきてるんですね？

それじゃあ、しゅしゅするスピード、上げちやいますね…しゅしゅしゅしゅ、しゅしゅしゅしゅ…

はあ、はあ、熱い…お兄さんのおちんちん、熱い…精液、出したくて出したくてたまらないんですね。

だからこんなに、熱をたぎらせて…はあつ…イっちゃえ…イっちゃえお兄さん…。

私達に、おちんちん気持ちよくされながら、イっちゃってください…。

はむっ、ちゅっ、ちゅっ、ちゅっ、ちゅっ、ちゅっ、じゅっ、くちゅっ、ちゅっ……ちゅっ。

じゅるるっ、じゅずっ、じゅるうっ、くちゅくちゅ、れろ、れろれろ、んじゅうっ。

ん、はああつ、んうううつ……！

んっ、
んん
んっ
…
！

はああつ…はあつ…あつ…いっばい、出ましたね、お兄さん…。

ひやつ…すづ…熱い…。

あつ、お姉ちゃんばかりずるい……あたしにも触らせて……

んっ……う、わあっ……すごいね、これ……ドロツとしてて、思ったよりも熱い……

指で触ると、糸引いて…めっちゃエッチ…。

…ふふ…お兄さん、肩で息してる…気持ち、良かったですか…？

ふふふつ、それなら良かった…私達も、お兄さんのこと気持ちよくなって、とっても嬉しいですよ。

んんっ…お姉ちゃんは…これだけで満足なの？

どういう意味…？

お兄ちゃん…あたし、この先のこと、シたい…お兄ちゃんと、セックスしたいよう。

セックスって、茉弥、それって…。

お姉ちゃんは、したくないの？ お兄ちゃんと、エッチ…。

わ、私、は…えつと…その…う、う…。

え、あ、えつ、べ、別に無理をしてる、というわけじゃ…。

わ、私も、その…お兄さんとは…シたいと思ってますけど…。

でもその、ごめんなさい…まだ…心の準備が、できて、なくて…。

だから…今日は、茉弥だけでも気持ちよくなって？ 私のことは気にしないでいいから。

そう…？ うーん、ちょっと抜け駆けみたいで忍びない気もするけど…。

…ねえ、お兄ちゃんは、あたしとシたい？ セックス。シてもいいって…思ってるかな？

…ふふ、そっか。嬉しい、ありがとう。

じゃあ、えつと…あたし、どうすればいいかな…。

…一回起き上がって、寝転がればいいかな…？

…うん、分かった…じゃあ、そうするね…。

…ほら、お姉ちゃんも…。

えつ、あつ、う、うん…。

はあっ…せっかくだし…お互い、服脱いじゃおつか、お兄ちゃん。

セックスするのに、服なんて邪魔だもんね。よい、しょ…。

うん、お兄ちゃんも上脱いじゃって。裸の付き合いしよう。にひひっ。

……。

お姉ちゃん、何ボーっとしてるの？

お姉ちゃんも脱ぐんだよ、ほら、早くっ。

え、えええっ！？

だ、だって、するのは二人でしょ？ だったら私が脱ぐ必要なんてどこにも…。

もう、何言ってるの。お姉ちゃんも混ざるに決まってるじゃん。

お姉ちゃんだけハブるなんて、そんな寂しいことさせるわけないでしょ。

ほら、分かったら脱いで脱いで。

え、で、でも…。

もう、いいから、ほら、脱ぐの！ あたしが脱がせてあげるっ！

へっ、やつ、ま、茉弥、ちょ、や、やめてっ、きゃああっ…！？

は、い、脱ぎ脱ぎしましょうね。にひひっ。

ほら、お兄ちゃん、お姉ちゃんの下着見てみて。黒だって。

ませてるよね。

やつ、ちょ、ちよっと茉弥っ…ああんっ、だめっ。

お兄さんも、見てないで助けてくださいッ…！

よし、準備完了。三人とも裸になったね。

うう…妹に辱められた…。

じゃあ、お兄ちゃん…始めよつか…。

うん、仰向けに寝転がるね…。

わあ…お兄ちゃんの顔…真正面で、近くにある…。

あたし…今からお兄ちゃんとセックスするんだ…

う、う…ドキドキしてきたよ…。

茉弥…すっごく期待した表情してるよ…すっごく、エッチ…。

だ、だってえ…ずっと、お兄ちゃんとセックスしたいって思ってたんだもん…。

お兄ちゃんとセックスする妄想して…でも、オナニーもできなくて、ずっと悶々としてて…。

…ねえ、お兄ちゃん…早く、お兄ちゃんのおちんちんちょうだい…。

あたし、もう一秒だって我慢できない…。

…ん？ どうしたんですか、お兄さん…。

…ああ、ゴム…確かに、生でするのは、危険ですよね…。

…お兄さん、ゴム持ってなかったんですね…。

てつきり、男の人は常備しているものだとばかり…。

お兄ちゃん、そういうことするつもり無かったんだもんね。そりゃ持てないのも納得だよ…。

でもいいの。お兄ちゃん、あたし、生でシたい。

ゴム越しじゃない、お兄ちゃんの生のおちんちん…感じたい…。

だから大丈夫…心配しないで…お兄ちゃんのおちんちん、ちょうだい…。

…お兄さん、茉弥の願い、かなえてあげてください。

それに…やっぱり、生ですの方が…茉弥も、気持ちよくなれると思いますから…。

うん…前戯も必要ない。さっき、お兄ちゃんのお耳舐めながらおちんちん弄ってる時に、ほら…

もう、こんなに濡れてるから…だからもう、準備万端だよ。

あたしと…生セックスして、お兄ちゃん…。

……うん。大好き…お兄ちゃん…。

んっ、くっくっくっ…！ んあっ、んんっ、んうっくっ…！

あっ、これ…思ったより痛い、かも…。

ま、茉弥、大丈夫？

ほら、茉弥。私の太ももの上に頭乗せていいから。

手も…握っててあげるね。

んはああっ、んふうっ…ありがと、お姉ちゃん…。

あっ、お、お兄ちゃん、だめっ…やめないで…。

半端なまま終わっちゃう方が、きついから…だから、このまま続けて…。

大丈夫、あたし、我慢できるから…んふうっ、んう、んんんっ…。

あっ、んああっ…お兄ちゃんのおちんちん…どんどんナカに入っていくの、分かるうっ…。

あっ、んふうっ…あっ、お兄ちゃんっ…お兄ちゃんっ、お兄ちゃんッ…ん、ふううううっ…！

あっ…奥まで、届いたっばい…？

はあ、はあ…う、うん…何か、お腹の裏側で、コツコツした感触があるから…。

お兄ちゃんも、感じる…？ あたしの、おまんこの奥…。

ふふっ…お兄さん、とっても気持ちよさそう…。

茉弥のおまんこ…そんなに気持ちいいんだ。

良かったね、茉弥。

よかったあ…これで微妙な反応だったら、女として自信なくなしちゃうところだったよお。

大丈夫。茉弥は可愛いから。自信持つて。

ふふ、ありがと…お姉ちゃん…。

…あつ、ごめん、お兄ちゃん。姉妹でイチャイチャして…。
…ん、んんっ…うん、痛みも引いてきたし…今なら動いても大丈夫そう。

それじゃあ…お兄さん。茉弥のこと、沢山気持ちよくしてあげてください。

来て…お兄ちゃん…。

んっ、んふううっ、んううううっ…！ あ、あはあっ…んうっ、んんんっ…！

はあっ、んはああっ…！ あっ、あっ、お、お兄ちゃんのおちんちん、来てるっ…。

おちんちん、来てるよおっ…んはあっ、はあっ、はあああっ…！

わっ…すご…茉弥の身体…すっごい跳ねてる…そんなに気持ちいいんだ…。

うんっ、うんっ…だって、お兄ちゃんのおちんちん…すっごく…気持ちいいんだもん…。

最初は、結構痛くて…セックスって本当に気持ちいいのかなって疑ってたけど…。

これ、やばいっ…気持ちいいってこと以外…考えられなくなっちゃうっ…。

うん、凄く伝わってくる…茉弥の顔…見たことないくらいに蕩けてるもん…。

それに…手を握る力も、どんどん強くなって…。

はあっ、はあっ…あたし、お兄ちゃんと、セックスしてるうっ…。

セックスしちゃってるよお…はあっ、はあ…お兄ちゃん…好き、好き好き、大好きい…。

あっ、んはああっ…あ、で、でも…お兄ちゃん…優しく、してくれるのは有り難いんだけど…。

もうちょっと…速く動いてもいいんだよ…？ ていうか、動いてほしいかも…。

だんだん、なんか…もどかしくなってきたっ…。

ふふ…茉弥ってば、欲しがりさんだね。

だ、だってえ…これ、お姉ちゃんも体験してみれば分かるよ…。

ね…？ お願い、お兄ちゃん…もっと、激しくして…もっと激しく、おちんちん突いてえっ…。

んはあああっ…！ んうっ、くふっ、んううううっ…！

あ、あっ、さつきより、気持ちいいっ、これっ…！

おちんちんが、おまんこの中、ぐちゃぐちゃに、掻き混ぜ、てえっ、ん、はああっ…！

あんっ、あんっ、はひっ、んあっ、ああっ！

さつきより激しく乱れてる…そんなに気持ちいいんだ…。

気持ちいいっ、気持ちいいよ、お兄ちゃんっ…はあっ、はああっ…。

もっとおちんちんちょうだいっ、もっと気持ちよくしてっ、お兄ちゃんっ、お兄ちゃんっ…。

んっ…気持ちよくなつて乱れてる茉弥…可愛い…。

…あっ、そうだ…ふふっ…茉弥…私も、茉弥のこと、気持ちよくしてあげるね…？

んえっ…？ お、お姉ちゃん…。

茉弥の…固くなってる乳首…指でいじってあげる…。

ほら、親指と人差し指で挟んで…こりこり…。

んはあああっ！ んうっ、んふううっ、あっ、ああっ…！ お、お姉ちゃん、

それ、今やられるとやばいっ、やばいってえっ…！ あはっ、あうっ、んうううっ…！

んんっ…！ 茉弥の身体…凄い跳ね上がったね…やっぱりこゝ、気持ちいいんだ？

ほらあ…指でくりくりしたり…爪でカリカリしてあげるっ…。

んやあああっ…！ あはっ、んうっ、んううっ…！ 今、乳首気持ちよくされたらあっ…。

あはっ、身体が敏感になってえっ、んふうっ、くうっ…。

余計に、お兄ちゃんのおちんちん感じちゃうよおっ…あはっ、んううっ、きゅううっ…！

あっ…ふふっ…お兄さんも、表情が陰くなりましたね…。

茉弥のおまんこ、きゅぅぅぅって締まって、おちんちん余計に気持ちよくなっちゃってるんですか？

そうですね…おまんこの締め付け、きつい方がおちんちん気持ちいいですよ…。

じゃあ、もっと茉弥の乳首いじめて…二人のこと、気持ちよくしてあげる…。

ほら…くりくり…くりりり…。

んはあぁっ…！ だめっ、お姉ちゃん、あっ、意地悪っ、意地悪だよぉっ…！

んはあぁぁっ、んぅぅっ、くふっ、んんんっ…！

んぅぅっ、くふっ、んっ、んっ！

んっ、んぅっ、んぅぅぅっ…！

違うよ。私は二人に気持ちよくなってほしいから…。

ほら…茉弥、現に今だってさっきより気持ちよきそうだよ？

お兄さんも…さっきより夢中で、腰を振ってる…。

そ、それはそうだけど…くふぅっ、んぅぅぅぅっ…！ んはぁっ、あぁぁっ…！

これっ、き、気持ちよすぎて…や、やばいんだってえっ…！

あたし、乳首が一番感じるから、余計にっ…。

じゃあ、いいじゃない。いっぱい感じて、茉弥の可愛いところ…お兄さんに見てもらおう？

んはあぁっ、んあぁぁっ…！ お、お兄ちゃん…今のあたし、可愛い…？

こんなに感じちゃって…はしたないって思ってる…？

そんなことないですよ、お兄さん。感じて、喘いでる茉弥…可愛いですよ？

くぅっ…！ は、あぁっ…だめっ…お兄ちゃんに可愛いなんて言われたらあぁっ…。

あっ、気持ちいいのっ…一気にながって来ちゃうよぉっ…あ、んはぁっ、んぅっ、んぅぅっ…！

すっ…茉弥の乳首…すっく硬くてコリコリになってる…。

ほら、茉弥…もつと可愛い声で喘いでいいんだよ…お姉ちゃんにも、お兄さんにも…。

茉弥の可愛い声、沢山聴かせよう…？こりこり…かりかり…。

んはあああつ、んんうううううう…！

あはあつ、お兄ちゃんつ…あたしのおまんこ、きゅううって締まってるうつ…

あつ、あはあつ…あたし、イっちゃうかも…

すぐそこまで気持ちいいのが来ててつ…あつ、あつ…お兄ちゃんのおちんちんで、

イっちゃうつ、んああつ、ああつ、気持ちいいの来ちゃう、来ちゃうつ…！

んつ、んうううううううう……！

茉弥、もしかしてイっちゃったの？

ふふ、そんなにお兄さんのおちんちんがよかったんだね。

はあ、はあ、はああつ…ごめんね、お兄ちゃん…先にイっちゃったあつ…。

ああつ、でも…お兄ちゃんも、もうイキそうなんだね…いいよ、伊っても…。

精液…あたしのおまんこの中に、びゅるる…って中出してつ…。

ああああつ！

んつ、くううううつ……！はあつ、はあ…伊ったばかりのおまんこに、出してつ……！

ああつ、んあつ、あつ、あつ、あん、ああつ、んつ！

あんつ、あんつ、はひつ、ああつ、んあつ、ああつ！

伊ったばかりのおまんこ、おちんちんでじゅぽじゅぽされて…、

茉弥、とっても気持ちよさそう…。

お兄さん…出して、出してください…茉弥のおまんこの中に…精液…。

うんつ、出してつ、出してお兄ちゃんつ……！

お兄ちゃんの精液、あたしの中にちょうだいっ…！

んうっ、んふっうっうっ、んふっ、んうっうっうっ、んっ、んっ、んうっうっうっうっ…！

んああああっ…はああっ…はあ…あっ…く、う…出て、るうっ…。

お兄ちゃんの、精液…あたしのおまんこの中に…ん、ふっうっ…。

うわ…茉弥…顔、とろっころ…そんなに気持ちよかったんだ…。

うん、これ…凄い…あっ…まだ、出てる…。

んんっ…お腹の奥が、すっごいポカポカして…温かい…。

えへへ…あたし、本当にお兄ちゃんとセックスしちゃったんだあ…。

ん…どうしたんですか、お兄さん…。

あ、もしかして、ゴム無しで中出ししちゃったの…焦ってます？

なあんだ、そんなことかあ…大丈夫だよ、お兄ちゃん。

今日は安全日だから、妊娠したりはしないはず…まあ、絶対とは言えないけどね？

こら、茉弥。脅すようなこと言わないの。

えへへ、ごめんなさーい。でもお兄ちゃんは…仮にあたしが妊娠しても、責任取ってくれるよね？

もう、茉弥ってば…。

にひひっ。でもお姉ちゃんだって妊娠するかもなんだよー？

お姉ちゃんもお兄ちゃんとセックスするんだから。

えっ、な、何それ？ 決定事項なの？

そりゃそうでしょ。

お兄ちゃんもさ、あたしとだけじゃなくて、お姉ちゃんともセックスしたいよね？

そ、そうなんですか…？

ま、まあ私も、いつかは…とは思いますが…。

そのいつかが早く来るといいね。

ねえ、お兄ちゃん。またあたしとセックスしようね。

あたし、お兄ちゃんとのセックスハマっちゃった。毎日シたいぐらいだよ。

ま、毎日は流石に…ねえ、お兄さん？ 毎日なんて、お兄さんの身体が持ちませんよね？

…ふふふっ、そんなことないっってお兄ちゃん言ってるよ。

それじゃあ、お姉ちゃんの決心がつくまで、

あたし達は毎日イチャイチャラブラブ、セックスしようか。

ね、お兄ちゃん。

う、うう…次は絶対に、私の番なんだから…。

ふふふっ♪ お兄ちゃんっ。

ちゅっ。えへへっ、だーいすきっ♡

■トラック6

ねえ、お兄ちゃん。こうやって家でゆっくり過ごすのも恋人らしくていいけどさ。

たまには外でデートもしたいな…って、うわ、滅茶苦茶渋い顔するじゃん。

なにー？ お兄ちゃんはあたし達とデートするの嫌なの？

嫌、というわけではないんですか？

ああ、そういう…。

確かに、社会人のお兄さんと、学生の私達二人が一緒に歩いていたら、

他人からは怪訝な目で見られちゃいますよね…。

えゝ、大丈夫だよゝ。自意識過剰だつて。

みんなそんなに他の人のことなんて見てないよゝ。

そういう訳にもいかないでしょ。お兄さんの世間体もあるし…。

あ、そうだ…兄妹、つてことにすれば自然なんじゃないですか？

お兄さんは、私達姉妹の実の兄…そうすれば年が離れていても違和感はないですし、

そういう感じでデートする、というのは…。

それめっちゃいいじゃん！ ねえ、お兄ちゃん、それならいいでしょ？

ねゝ、デート行こうよゝ。あたし、お兄ちゃんと恋人らしいことしたいゝい。

…私、も…その…できれば、お兄さんとデート…してみたい、です…。

…あつ、お兄ちゃん領いた！ よゝし、それじゃあ決定ね！

ほらお姉ちゃん、準備して早く行くよ！

えつ、きやああつ、ちよ、茉弥！？ 服脱がさないで、着替えくらい一人でできるからあ！？

ねえゝ、お姉ちゃんさゝ

な、なに…？。

なに？ じゃないよゝ。せつかくお兄ちゃんとデートしてるんだからさゝ。

もつと積極的に攻めていきなよゝ。お姉ちゃんただでさえ普段から消極的なのにゝ。

こういうときこそチャンスでしょ。

わ、分かつてるよつ。だ、大丈夫…今日は、いつもの私とは違うんだから…。

見ててよ、茉弥。

ふーん？ それじゃあ、お手並み拝見と行きましようかねゝ。

お、お兄さん、私、ちよつと寄りたいところがあるんですけど…。

良ければ、付き合ってもらえますか？

…は、はい…ここのお店なんですけど…

……そうです。ランジェリーショップです。

…ここで…私の下着を選んで欲しい、んですけど…。

うわー、お姉ちゃん、結構大胆に攻めたなー。

……はい。お兄さんに、選んで欲しいんです…。

だめ、ですか…？

…いえいえ、下着のことが分からなくても大丈夫です。

何となくで選んでもらえれば大丈夫なので…。

…はい！ それじゃ早速、お店の中に入りましょう♪

えっと…お兄さんは、こっちとこっちだったら…どっちが好きですか？

…なるほど…黒が、好き…なんですネ。

ふふ…お兄さん、大人っぽいのが好きなんですネ。

分かりました…じゃあ、これにしようかな…。

…はい、お兄さんの好きなやつを買おうって最初から決めてました。

私、お兄さん好みの女になりたいですから…。

…好きな人の色に染まりたいって思う女の子は…嫌い、ですか？

…ふふふ、それじゃあ、買ってくるので、待っててください。

あ、あと…私、もう一つ行きたいところがあるんです。

これを買った後…そこにも、付き合ってもらえますか…？

「うわーっ、ひろーい！　きれーい！　ここがラブホかー！　初めて来たー！

ビジホよりもなんか雰囲気のエッチ！　当たり前だけど！

ふふ…お兄さん、付き合ってくれてありがとうございます。

はい…私、ずっとここにきてみたいって思っていました。

それがどういう意味か…分からないとは、言わせませんよ。お兄さん。

私…お兄さんと、セックスしたいです。この前、茉弥とシたみたいにな…。

お兄さんのおちんちんで、私のおまんこ、ずぶずぶ犯して欲しいです…。

ん、ふう…お兄さん…おちんちん、もう固くなり始めてる…。

私がラブホテルに行きたいって言った時から、期待していました…？

ふふ…私もですよ…えあ、お兄さん、ベッドに移動しましょう…。

ふふふ、お姉ちゃんもようやく決心がついたか。

気持ちよくなりすぎて、恥ずかしいところ見せないようにね？

わ、分かってるよ…さ、お兄さん…ベッドの上に…んっ…。

服、脱いでいきましょう…もうお互い、我慢できませんよね…

…ほら、茉弥も脱いで…？

え、あたしもいいの？

もちろん。ここまで来て、茉弥だけ仲間外れ…ってするほど、私は薄情な姉じゃないよ。

んー、今日はお姉ちゃんとお兄ちゃんのイチャイチャを眺めてるだけで満足だったんだけど、

そういうことなら…えへへ、お言葉に甘えてー私も脱いじゃお。

あっ、お姉ちゃんさつき買った下着そのままつけてきたんだ。

うん。黒でお揃いのブラとショーツ…ちょっと背伸びしすぎ感も否めないけど…。

でも、お兄さんが選んでくれた下着ですから…これでお兄さんのこと、いっぱい誘惑できます。

…エッチな気分になってくれると、嬉しいなあ。

にひひっ。じゃあお姉ちゃん、せっかくだしそのままエッチしなよ、下着姿のまま。

そっちの方が、全部脱ぐよりもお兄ちゃん興奮するんじゃないの？

あつ、確かに…お兄さんはどっちがいいですか？ お兄さんが興奮する方を選んでください。

…ふふ、下着姿のまま、ですね。分かりました…

それじゃあ、このまま…エッチしましょう…お兄さん。

は…い、でもお兄ちゃんは全部脱いでね。おちんちん出さないとエッチできないでしょ。

ほら、あたしがお兄ちゃんのズボンとパンツ脱がせてあげる。

ぬぎぬぎしましょうね。

ん…ありがと、茉弥…。

それじゃあ、お兄さん…えっと…仰向けに、寝そべってもらっていいですか…？

私が、その上に跨るので…。

…はい。私が動いてあげたい気分なんです…。

初めてで騎乗位って、中々ハードル高いかもしれないですけど…私、どうしてもしてみたくて。

騎乗位か……ふふ、むっすりすけべなお姉ちゃんにぴったりかもね。

も、もう、茉弥！ からかわないの…。

あつ…ふふ。ありがとうございます、お兄さん…

えっと…それじゃあ、お兄さんの上に跨りますね…。

ふふーん、じゃああたしは…お兄ちゃんの隣に寝転がっちゃおっかな。

へへ。お兄ちゃんの顔が顔がすぐ近くにある。

あつ…それ、なんか羨ましいかも…。

んっ…お兄さん、こっちも、見てください…ほら、お兄さんが選んでくれた下着…。

もっと、見て…。

ほら、お兄ちゃん。お姉ちゃんに誘惑されてるよ。見てあげて。

お兄さんの、既に固くなってるおちんちん…下着越しの私のおまんこで、擦ってあげます…。

んっ…ふっっ、ふっっ、ふっっ…。

あは…お姉ちゃんの下着が、お兄ちゃんのおちんちん、すりすりっって擦ってる…。

ねえお兄ちゃん、気持ちいい？ それともどこかいいのかな？

早くお姉ちゃんのおまんこにおちんちん入れたいっってなっちゃうのかな？ にひひっ。

まだ…まだですよ、お兄さん…。

こういうのは、焦らしてあげた方がより気持ちよくなるって、聞いたことがありますから…。

それに、セックス前の前戯はとても大事だと…。

だから…もどかしい気持ちをいっぱい蓄えて…おちんちん、もっと大きくしてください…。

んっ、んふうっ、くふう…んふうっ、んっ、んっ、あっ、くふう…、んっ、あっ…、んっ、んふっ、んんっ…。

あははっ、お姉ちゃん、すっごくエッチな顔してるね…。

そうだよ、お姉ちゃん、普段は真面目ぶってるけど、あたしなんかより全然エッチなんだから。

だから、お姉ちゃんとのエッチ、すっごく気持ちいいと思うよ。期待してね、お兄ちゃん。

んっ、んふうっ…ふうっ…はあぁっ…どうですか、お兄さん…。

興奮…してきましたかぁ…？ ん、くふう…あ、はあっ…下着越しに…。

お兄さんのおちんちん、凄く硬くて…熱くなってるのが分かる、うっ…くふう、はあぁっ…。

あ、お兄ちゃん、どんどん息荒くなってるね。おちんちん入れたい？

早くお姉ちゃんのおまんこにおちんちん入れて、じゅぶじゅぶうって堪能したい？

えへへっ、お兄ちゃんのエッチ。スケベ

ふふ、もっと興奮しちゃえ。

ふううう~~~~っ。

んっ、くふうっ…！ あっ、お兄さんのおちんちん、すっごく跳ねたあ…。

お兄さん、やっぱり、耳弱いんですね…ふふ…。

茉弥…もっと、お兄さんのお耳、可愛がつてあげて…。

えへへっ、りょーかい…ふふううう~~~~っ、じゅぶ、じゅぶ、じゅぶ~~~~っ…。

んくうっ、んうううっ…ふふ…お兄さん、もう限界ですか…？

私のおまんこ、使いたいですか…？

んっ、くふうっ…んんっ…はい、いいですよ…私ももう、限界ですから…。

ほら、見てください…ショーツ、ずらしますから…んっ…。

私のおまんこも…もうとろとろになっちゃってます…。

お兄さんのおちんちんが欲しすぎて…愛液が溢れて、ぐちゅぐちゅに…ん、はあ…」。

うわー。お姉ちゃんのおまんこ、ぐちゅぐちゅに濡れてめっちゃエッチ…。

…あ、お兄ちゃん今生唾飲み込んだでしょー。

あは、お兄ちゃんもエッチだ。

んふふふうう~~~~。

ん、くふうっ…お互い、もう我慢の限界ですよね…。

じゃあ…お兄さん…お兄さんのおちんちん、私のおまんこのなかに入れますね…。

ふうっ…お兄さん…私の初めて…もらってください…。

…大好きです…。

くふっ、んふうっうっ…！ んっ、んふうっ…はあっ、んああっ…。

すっ、これっ…息が詰まる…んんっ…茉弥も、こんな感じだったんだね…。

確かにこれは…ちよっと、痛い、かも…ん、くふっ…。

お兄ちゃん、なるべく力抜いてあげて。その方がお姉ちゃん楽になると思うからさ。

ふううう…ほら、リラックスリラックス…ふううう…。

あっ、でも…イケそうっ…ん、くふうっ…んんっ…！

はあ…はあ…んっ…処女膜…破れましたね…あっ…んっ…。

破れてからはスムーズだね。お兄ちゃん、奥まで届いた？

んっ、は、ふうっ…お兄さんのおちんちん…奥まで届いてる…。

凄く温かい…これが、セックスなんだ…私、お兄さんとセックスしてる…。

あはは、お姉ちゃん、あたしと同じこと言ってる。

良かったね、姉妹揃って処女卒業できて。

お兄ちゃん？ 姉妹二人の処女貰った責任、取ってよね？ ふううう…。

んううっ…お兄さんのおちんちん…私の中で、ビクビク動いてる…。

おまんこのヒダヒダに包まれて、気持ちいいですか、お兄さん？

…でも、これだけじゃ射精できないですよ？

動いて…欲しいですよ？

ふふ…私も…いっぱい動いて、お兄さんのおちんちん、沢山感じたいです

…はい…痛みも大分引いてきたので…このまま…動いていきますね…？

お兄ちゃんも、気持ちよかったらいっぱい腰動かしてあげなよ？

じゃあ…動きます…いっぱい愛し合いましょね…お兄さん…。

んっ、くふ、んんっ…。

んっ、んぶっ、んううううっ……！ んはあっ、はああっ、はあっ……。

あつ、あつ……お兄さんのおちんちん、凄く……感じます……。

お兄さんのおちんちんが、私のおまんこを、ずりゆずりゆつて、挟つてえつ…。

んふう、くふううつ…！ はあつ、はあ…私、お兄さんとセックスしてる…。

セックスしてるよお……はあ、はああつ……。

あは、見てよお兄ちゃん。

普段あんなに真面目で清楚ぶってるお姉ちゃんが、

お兄ちゃんのおちんちんであんな風に乱れちゃってるよ。

んふふ、興奮しちゃうでしょ。

はむっ、んちゅうっ、ちゅるる…くちゅくちゅ、じゅる、ちゅぷ、ちゅづづっ…。

はぶつ、んうつ……れろつ、れろつ、ちゅぱつ、じゅうつ……

れろっ、れるっ、じゅぷっ、うんっ……

んれろっ、んれろっ、じゅぶっ、じゅぶぶ、

くちゅっ、んうっ、じゅぶっ、うんっ……。

ん、んふううつ、くふううつ…あつ、あつ…腰、勝手に動いちゃう…。

だめ、これっ……気持ちよすぎますうっ……ん、んふうっ、ああっ、んっ、んっ、ああっ、ああっ、んんんっ……！

一人ですのと全然違うつゝオナニーの何倍も気持ちいいよお…。

こんなの知っちゃったら、私っ、もう戻れませんっ……お兄さんっ……。

ああつ、んつ、んつ、ああつ、んはああつ……。

ふふ。お姉ちゃん、お兄ちゃんのおちんちんにすっかり夢中になっちゃってるねー。

男冥利に尽きるでしょ、お兄ちゃん…んむっ、くちゅっ、ちゅぶ、じゅるるっ、くちゅ…
じゅるる、くちゅ、ちゅぶっ、じゅぶ、じゅぶ…。

あ、はあっ…お兄さん、ごめんなさい…私、本当はエッチな子なんです…。

性欲も強くて、お兄さんとセックスすること考えながらオナニーもして…。

イケナイ子なんです…でも、嫌わないでください…エッチな子でも、

私のこと嫌いにならないでくださいっ…んぶっ、くぶっ…！

あっ…あっ…あん…あっ、ああっ…ああっ、

嫌いになる訳ないよねー？　むしろ、お兄ちゃんはエッチな女の子大好きだもんね？

ほらお兄ちゃん、言ってあげなよ。お姉ちゃんのこと、大好きっ…。

んむ、じゅぶ、くちゅっ、ちゅるる…じゅぶ、ちゅるる、んちゅっ…ちゅぶ。

あっ、あっ…本当、ですか…？　お兄さん、エッチな女の子でも好きでいてくれますか…？

はいっ…はい、私もお兄さんのこと大好きです…エッチなお兄さんが大好きです…。

これからは沢山、セックスとか…エッチなこととか、沢山しましょうね…。

私、何でもしてあげますからあっ…んあっ、はうっ、くぶっ…！

ふふっ。良かったね、お兄ちゃん。

お姉ちゃん、何でもしてくれるって。

どんな変態さんの要求でも、お姉ちゃんなら受け入れてくれるかもね？　にひひっ。

んじゅぶ、ちゅるる、くちゅ、ちゅぶっ、じゅぶ…。

くちゅっ、んうっ、じゅぶ、うんっ…。

くちゅっ、んうっ…ちゅぶ、は、は、は…。

じゅぱっ、ぴちゃっはらっ、んうっ。

はあぁっ…はぁっ…んぐっ、んふっ、んんっ…ふっ、あはぁっ、はぁ…んんっ…。

…ほら、お兄ちゃん。お姉ちゃん、もどかしそうにしてるよっ。

もっど腰、激しく動かしてあげなよ…にしし。それとも…手伝ってあげた方がいい？

…おっと？ お兄ちゃんのかたゝく勃起した無防備な乳首はっけゝん。

今なら弄り放題だねゝ。ほゝら、人差し指ですりすりしてあげる。すりすりすりゝ…。

んふうっ、んはあぁっ…！ あっ、あっ…お兄さんのおちんちん…急に突き上がってきてっ、

く、ぐっ、ぐっ…！。

はあぁっ…はぁっ…あぁっ…はぁ、はぁ…あぁっ…。

あははっ、お兄ちゃん、乳首も感じる人なんだゝ。

へえゝ、じゃあいっぱい弄っちゃおう。そうすれば…気持ちよくなって、

腰も勝手に激しく動いちゃうよね？

ほらゝ、沢山動いて、お姉ちゃんのこと気持ちよくしてあげなよゝ。

…カリカリ…カリカリカリゝ…。

んふうっ、んんっ、んううううっ…！ あ、あぁっ…！ ピストン、早くなったぁっ…！

あっ、あふうっ、おまんこ、ぐちゅぐちゅに掻きまわされて、るうっ…んふうっ、くふうっ…！

あっ、ああぁっ…激しいの、好きい…もっど、激しくしてほしいよおっ…！ んああぁっ…！

だってきゝ、お兄ちゃん。もっど激しくしてほしいんだって。

お姉ちゃんMなんだよ。知ってた？ だから、おちんちん、もっど激しく突いてあげて。

ほゝら…乳首ゝ…指先で、カリカリカリ…さわさわさわゝ…。

お耳も一緒に…んむっ、ちゅぷっ、ぐちゅぐちゅ、じゅぷ、ちゅううっ…。

んああっ、ああああっ…！これっ、これ好きっ…おちんちんでずぼずぼ激しくされるの。

おまんこ沢山感じちゃううっ…！んはああっ、はづっ、くぐうっ、んぐうっ…！

お、お兄さんっ…もっとお…もっとかださい…お兄さんのおちんちん…。

おまんこ…いっぱいじゅぽじゅぽしてえっ…んぐうっ、んぐうっ…！

はむっ、んむうっ…れろ、れろれろろ…じゅぶっ、くちゅくちゅ、じゅる…ちゅうっ…。

はああっ…ふふふっ、二人とも、気持ちよきそう…。

お兄ちゃんもお姉ちゃんも、いっぱい感じてね…んむ、じゅぶっ…カリカリ…。

くちゅくちゅ、じゅるうっ、カリカリ…じゅぽっ、れろれろろ…。

はああっ、んはああっ…お兄さんっ…お兄さんお兄さんッ…。

好き…大好き。

お兄さんとセックスしたいって思ってた…。

んふうっ、ふうっ…当たり前、じゃないですかあ…。

好きな人とは、いっぱいイチャイチャしたいですし、エッチなこともしたいです…。

私、これからはもっと積極的になりますね？

いっぱいお兄さんにアプローチして、誘惑しちゃいますから…覚悟してください…。

んふうっ、ふううっ…！

ああっ、んあっ、あっ、あっ、あん、ああっ、んっ！

あんっ、あんっ、はひっ、ああっ、んあっ、ああっ！

あゝあ。お兄ちゃん、これから毎日お姉ちゃんに搾られるね。

あ、勿論あたしもお兄ちゃんと毎日エッチしたいって思ってるから、

枯れないように頑張ってね。お兄ちゃん。ふふふっ。

んむ、ちゅぷつ、じゅるるる、くちゅ、ちゅぷうつ……んふう、カリカリ……カリカリ……。

んづつ、んづつ、んづつ……！

お兄さんは…私と茉莉と、今後どんなエッチをしてみたいですか…？

手でされたいですか？ それとも足？ おっぱい？ お口？

私達のこと責めたいですか？ 責められたいですか？

何でも言うてくださいね…何でもしてあげますから…。

私、お兄さんに全部シてあげたいです……んふうっ、ふうっふうっ……！

じゅづつ、じゅるるるつ、くちゅづつ……ちゅづちゅづ、れろおつ……。

ふふ、お姉ちゃんやる気満々だねー。お兄ちゃん、今のうちに体力と精力付けといたほうがいいよ。

お姉ちゃん、絶対あたし以上にサキユバスだからさー。骨の髄まで搾り取られちゃうよ。

うんち、ふんち、ふんち、ふんち……

んふづうづつ、んあああつ……！ あつ、あはあつ……！

あつ、ああつ…おまんこ来てるつ…一番気持ちいいのつ、来てるつ…。

んっ、んふっ、お兄さんのおちんちんも……どんどん熱くなって……。

あつ、あつ、私、いつちやうつ……奥から熱いの、来てるうつ……！

お兄ちゃんもいっちゃいそうなんですよ？
ちゅぷ、じゅるる、くちゅ…。

ふふ、顔見れば分かるよ〜

それじゃあ、いつちやいなよ。お姉ちゃんのおまんこに中出ししちゃえ。

二人一緒に、ラブラブに同時イキしちゃえ〜…んむ、ちゅぷっ、じゅるるるっ、くちゅ…。

ちゅちゅ、
じゅじゅ、
くちゅ、
ちゅちゅ、
じゅじゅ、
じゅじゅ、
ちゅちゅ、
んちゅ。

あつ、んあああつ……！ イクつ、イツちやうつ……！

お兄さんも、イってっ…射精してっ…私のおまんこにも、茉弥のナカに出したのと同じ、
熱い精液…びゅるるゝって、中出ししてっ…お兄さんの精液、ちょうだいっ…！

ほらっ、イけっ、イけっ…イク、イクイクイク、イクうゝ。

あっ、あっ、んあああっ、あぶうっ、んぶうっ、んんっ…！

んぶううううううゝゝゝ……！

んっ…はあ…はあ…あ、はあっ…お兄さんの…精液っ…ん、はあ…。

お腹の奥に…広がってるう…はああっ…温かい…。

ふふふっ。お兄ちゃん、これであたし達姉妹に中出し生セックスしたってことになるね。

ひゅゝ、悪いオトナゝ。

気にしないでくださいね、お兄さん…私も…中出ししてほしかったので…。

ふふ…私のナカにも、お兄さんの証が刻まれたんだあ…ふふふっ…。

お姉ちゃん…その発言はちょっと、重い女っぽくて怖いよ…。

重くてもいいもん。実際、私の愛って結構重めだと思っし…。

それとも、お兄さんは…重い女は好きじゃないですか？

…ふふ、お兄さんなら、どんな私でも好きでいてくれますよね？

私も、どんなお兄さんでも大好きですよ。

ん、ちゅぶうっ…ちゅう…んちゅうっ、ちゅ、ちゅう、ちゅう…。

ん、ふふはっ…ふふらうっ。

あっ、お姉ちゃんだけずるい…！ あたしもお兄ちゃんとキスする…。

んむっ、ちゅうっ、ちゅぶうっ、ちゅるゝちゅう、ちゅうひっ、ちゅるゝ…。

んぶう、お兄ちゃあん…。

ちゅつぷつ、じゅぷぷつ、ちゅつぷ……

れろれろ、ちゅぷ、ちゅぷつ、じゅぷぷ、ちゅ、れろれろちゅぱつ、

だめっ……今は私の番なんだから……んむっ、ちゅううつ……ちゅぷうつ……。

れろれろ、ちゅぶ、ちゅぶつ、じゅぶぶ、ちゅ、れろれろちゅぽつ。

お姉ちゃんは散々お兄ちゃんとイチャイチャしたんだからいいでしょう、

今度はあたしの番だよ……ん、ちゅぷ……ちゅるる、くちゅうつ……。

んんうっ…お兄さん…こっち、向いてください…私と沢山キスしましょ…。

だめー…お兄ちゃんはあたしとキスするの…んうっ…。

んうっ、ちゅぶうっ……ちゅく、じゅるるっ、んちゅううっ、ちゅぶ、ちゅううっ……。

ちゅぷちゅぷ、じゅるるっ、んちゅうっ…はあ、お兄さん…大好きです。

んちゅ、ちゅづづづ、ちゅづづ、ちゅづづ…ちゅづづ。

んちゅ、ちゅるる、くちゅづつ、ちゅぶぶぶ、ぐちゅ、じゅずつ、ちゅづづづつ……。

んうう……お兄ちゃん……好き……大好き……ちゅううつ、ちゅるる、くちゅくちゅ、

ちゅぷ、れろれろ……ちゅうつつ……ぷはっ……。

…あ、ご、ごめんなさいお兄さん…休みなく二人でキスしたら、苦しいですよね…

すみません、つい夢中になっちゃって…。

もー。お姉ちゃん流石にがつつきすぎだよー。このスケベー。

なっ…ま、葉弥にだけは言われたくないんですけどっ。

ふふ…三人とも、凄く汗かいましたね。

良かったら、三人でお風呂に入りませんか？

あつ、さんせー！ ラブホのお風呂ってどんな感じなんだろう。

…ていうかこれ、あれだよ。またエッチな流れになるやつだ。

ふふふっ、お兄ちゃん体力もっ？ 大丈夫ー？

ふふふ、勿論大丈夫ですよ、お兄さん？

今まで遠慮してた分、今日はいっぱいイチャイチャさせてもらいますから…。

覚悟してくださいね、お兄さん♪ ふふふっ。

■トラック7

よし、っと…二人とも、もう寝る準備できてる？

はい。

いやー、それにしても、こうやって三人並んで寝るのも当たり前になったねえ。

数か月前まで別々の部屋で寝てたのに。

お兄さん、恥ずかしがってましたからね。

でも、もう私達恋人なんですから。寝食はできるだけ一緒にしないと、ですよ？

うわー、お姉ちゃん将来結婚したら束縛強い系の奥さんになりそー。

せめて愛情が深いって言ってよっ。

…ふ、あああっ…ああ…もう私眠気が限界…。

それじゃあ、電気消すね？ 二人とも、おやすみ。

はい、おやすみ。

……………すう…んっ…ふう…すう…すう…。

ふう…すう…すう…すう…すう…すう…すう…。

………ん………

ねえ、お兄ちゃん。まだ起きてる？

…あ、良かった。まだ起きてた。

お姉ちゃんもう寝付いたみたいだから、

お兄ちゃんまで寝ちゃってたらどうしようかと思ってた。えへへ。

…ん、なんか眼が冴えちゃってさ。眠れる気がしないんだよね

…ふふ。だからさ…あたしが眠れるまで、構ってよ。ね、お願いお兄ちゃん♪

あつ、お兄ちゃん、何でそっぽ向いちゃうのっ。

ねえ、構ってよ。ほんとに眠れないんだってば。

…うわ、可愛い彼女のお願いを無視するとか、DVだDV

あたしはお兄ちゃんをそんな風に育てた覚えはないぞ

…ふん、意地でもそういう態度取り続けるなら…こつちにも考えがあるもんね…。

お兄ちゃんのおちんちん…ズボン越しになでなでしちゃうもんね。

ほら、構え構え。じゃないと…こんな風に、ずうっとお兄ちゃんのおちんちんに。

いたずらし続けちゃうぞ。

んっ…ふう…手のひら全体で…おちんちん全体を撫で回したり…。

先っぽのところを、爪でカリカリ…ってしたり…。

あは、たまたまをさわさわ…ってされるのも気持ちいいんだよねえ。

ふふふふふふ…。

なんか…こうやって後ろからお兄ちゃんに抱き着きながら、おちんちんにいたずらしてるのさ…。

あたしがお兄ちゃんのこと犯してるみたいだね！

…あつ、ふふ…ほら、お兄ちゃん身体プルプル震わせてるし…すっごくエッチ…。

ふうふう…ふふ…ふふ…ふふ…ふふ…ふふ…。

あんっ…もう、お兄ちゃん…声出しちゃダメ…そんな声出したらさあ…。

んっ…んんう…？ んふづう…ん…すう…。

すう……すう……すう……。

ほら…お姉ちゃん起きちゃうかもでしょ？

だから、声出すのはダメ…暴れるのもダメだからね？

…やだ、やめてあげないもん。

あたしが眠くなるまで、一緒に遊んでよお兄ちゃん。

…それに、お兄ちゃんだつて満更でもないでしょ？

さっきから全然抵抗しないし…しかも、おちんちんどんどん大きくなってるし♪

ほら、あたしの手のひら押し返すみたいに、むくむく…って…どんどん反り返ってきてる。

こうやって焦らすみたいに触られるの気持ちいいでしょ？

いいよ、もっと触ってあげる…。

さわ、さわ…さわさわ…なでなで…なでなで…。

こちょこちょこちょこちょ…。

ふふ…優しい刺激ばかりでもどかしいですよ。

もっと激しくいじってほしいっ。

ズボンの上からじゃなくて、直接おちんちん…しこしこ…って…。

…だめ。そんなことしたら、お姉ちゃん起きちゃうでしょ。

だから、お兄ちゃんはこの優しい刺激だけで我慢して♪

ふふふっ、生殺しだね、おちんちん辛いね。

…もう、そんな切なそうな声上げないでよ。

んん…んん…すう…

すう…すう…すう…すう…。

お姉ちゃんが起きちゃうからね。我慢…我慢だよ。

さわさわ…ふふ、やっぱり先っぽカリカリとたまたまこちよこちよされるのが一番効いちゃうのかな？

先っぽ…人差し指で…カリカリカリ…カリカリカリ…。

ふふ、おちんちん、ビクンビクンって震えちゃってる…。

ほらあ…ムラムラが溜まつてるたまたまさんもお…五本の指で…。

さわさわさわ…こちよこちよこちよこちよ…。

ふふっ、ふふふふっ…♪

ん？ お兄ちゃん何？ 何か言いたいことあるなら、はっきり言ってよ。

…ふーん。もう限界だから、抜いてほしいんだ？

おちんちん、しこしこしてほしいの？ 射精したいの？

もう、しょうがないな。それじゃあ…声、我慢できな？

…うん、絶対大声出しちゃダメだからね。

じゃあ…お兄ちゃんのパンツの中…失礼しますよ…。

手を、お兄ちゃんのパンツの中に入れて…と…。

んっ…お兄ちゃんのおちんちん、あつつい…。

あたしに沢山いたずらされて、その気になっちゃったんだ？

ふふふ、かーわいい。

ほら、あたしの指先…ズボン越しじゃなくて、直接お兄ちゃんのおちんちんに触れてるよ。

指がぴとっつてくっついて…爪でカリカリしたりするとお…。

あは、気持ちよさも倍増だよねえ。

ズボン越しとは比べ物にならない気持ちよさだよねえ

それじゃあ…お兄ちゃんのおちんちん…きゅ…っ握って…、

音が立たないくらいの強さで、しこしこしていへよ…。

ふふ…あれ…？ お兄ちゃん、なんかいつもより感じてない…。

あはは…背中すっごい丸まってる…気持ちいいの我慢してるの？

油断していると声出ちゃう？

さっきの焦らしで気持ちよさが残ってるのかな…。

それとも、この状況がよりお兄ちゃんの気分を興奮させてるのかな？

隣にはお姉ちゃんが寝ていて、声を上げちゃいけないこの状況が…。

ふふ、何だかイケないことしてるみたいだもんねえ…はあぁっ…。

あたしも、なんかいつもより興奮しちゃうよお…。

ほらあ、お兄ちゃん…あたしの指…もっと感じて…しこしこし…っ。

んっ…？ んふう…ん…すう…すう…。

ふふっ…分かってるよお…声上げたら…お姉ちゃんが目え覚めちゃうかもってことくらい…。

だってえ…お兄ちゃんが声我慢してるの見てると…声上げさせたくなくなっちゃうんだもん…。

あはは…あたしきゅ…お兄ちゃんと付き合うまで、自分ってZなのかな…っと思ってたんだけど…。

意外とひなのかもしれない。

お兄ちゃんのこと見てると、からかいたくなったり、

いたずらしたくなっちゃうんだもん。

お姉ちゃんのことそうでさ……ついついいじめて、困らせたくなっちゃうの。

あたしってあれのかな、好きな人ほどいじめたくなるゝ的なやつのかな。

あはは、小学生男子かって感じだよね。子供っぽいとはお姉ちゃんにもよく言われるけど…。

まあでも、子供っぽいってことは、甘え上手ってことでもあると思うから…。

これからたゝくさん、甘えさせてね。お兄ちゃん♪

その分、こうやってエッチなご奉仕してお返ししてあげるからさゝ。

…んふゝ、まあもちろん、あたしがただシたいからってのもあるんだけどねゝ。

んっ、ふうっ…んんっ…ほらあ…お兄ちゃん？

甘い声…ちよつとずつ漏れてきてるよ…我慢…我慢しなきゃ、ほらあ…。

んふっ、ふふふっ…しっしっしっしっ…

指をたまたまの方まで滑らせて、こちよこちよこちよこちよゝ。

あはは、お兄ちゃんこちよこちよ弱いねゝ。おもしろゝい。

はああ…はあ…あたし、焦らし責めとか結構好きなのかも。

お姉ちゃんと二人で、お兄ちゃんのこと焦らし責めしてみたいなゝ

乳首とかお耳とか、たまたまだけ気持ちよくさせ続けてゝ、おちんちんには一切触れないの。

それで、お兄ちゃんがいつまで耐えられるかっていう遊び。

楽しそうじゃない？

…あは、お兄ちゃん聴いてる？

何？ もうイっちゃいそうなの？ ふふふ、いいよ…出しちゃえ出しちゃえ。

お姉ちゃんが寝ている隣で、あたしの手の中にびゅるゝって精子出しちゃえ。

ほら、イけ、イけイけ…イっちゃえ、お兄ちゃん…。

んっ、んふううっ…んううっ…あっっ…んんっ…

うわぁ…いっぱい出てるね…。

最後まで出し切っちゃって…じ…じ…じ…じ…。

んんっ…全部出た？ ふふっ、気持ちよかったねえ、お兄ちゃん。

うわぁ…見て、お兄ちゃん。あたしの手、べっとべとだよ。

ん…くちゅ、ちゅぶうっ…くちゅちゅ…ふふ、お兄ちゃんの精液、おいし…。

…お兄ちゃん、今パンツの中ぐちよぐちでしょ。

流石にそのままじゃ気持ち悪くて眠れないよね。ちょっと待ってて…んしよ…。

ふふーん。布団の中に潜っちゃった。

お兄ちゃん、ズボンとパンツ脱がすね。

精液でべとべとになったお兄ちゃんのおちんちん…あたしのおくちで、綺麗にしてあげる。

ふふ…いただきまーす。

はむう…んじゅうっ…くちゅ…ちゅぶ、じゅるるっ、くちゅ、ちゅぶうっ…。

んうっ…？ んんっ…むにや…んう…っ…

んう…やっぱり、フェラは結構音が立つちゃうから…なるべく音を立てないように…。

ゆっくりやらないとだねえ…。

んうう…れろおっ…んちゅ…くちゅうううっ…ちゅぶ…れろ…れろれろ…れろおっ…。

んふんふん、くちゅうっ…ちゅぶる、じゅぶうっ…ちゅぶうううっ……。

んあぁっ…たまたまの方にまで、精子垂れてる…隅々まで、舐めとってあげなきゃねえ…。

んふふ、じゅぶうううっ…れるれる…れろおっ…くちゅ、ちゅぶうっ……。

じゅぷ…じゅるじゅる…くちゅ…ちゅううつ…ちゅるる…んちゅうつ…ちゅうつ…ちゅうつ…。

ぷはあっ…はあ…はあ…ふふ…綺麗になったよ、お兄ちゃん♪

…ん…ふああっ…ありや…エッチなことしたからか…眠くなってきちゃった…。

んう…隣、戻るね、お兄ちゃん…。

んうう…ふああ…。

ふふ…エッチなことした後つてさ……なんか心地よい倦怠感？　みたいなのい包まれるよね…。

この状態で寝たらめっちゃ熟睡できさ…。

…あ、お兄ちゃん。分かっていると思うけど……今日のこと、お姉ちゃんには秘密だからね…？

お姉ちゃんやきもち焼きだからさー、

絶対『何で私に黙ってそんなことするの…』って泣いちゃうから。

あたし達だけの…秘密ね？

…ふああっ…んふふ……ぎゅううつ……ふふ……やっぱりお兄ちゃんとイチャイチャするのが好きだなあ。

…それじゃ、おやすみお兄ちゃん。明日もたーつくさん、イチャイチャしようね…。

■トラック8

お兄さん、大丈夫ですか？　帰ってきてから、ず…つとうつ伏せで寝転んでいますけど…。

もしかして、どこか具合でも悪いんですか？

お仕事で疲労困憊って感じなんじゃないかな。

お兄ちゃん、大丈夫ー？

お兄さん、疲れた時は、お風呂に入って、美味しいものを食べて、よく眠るのが一番ですよ。

というわけで、最初にお風呂に入っちゃいましょう。

その間に私がご飯を作るので……って、お兄さん…？

あらら…一人でお風呂に入るのも厳しいですか？

うーん、どうでしょうか…一日くらい入らなくても…。

ううん、でもやっぱりお兄さんにはすっきりした気持ちになって欲しいし…。

……あつ、そうだ…お、お兄さん…お風呂に入る気力が湧かないなら…。

わ、私が…お背中、流してあげましょうか…？

それならほら、お兄さんは何もなくてもいいですし…。

私にただ、洗われてくれるだけでいいので…。

ふふーん。とか言ってお姉ちゃん、本当はお兄ちゃんとエッチなことしたいだけなんじゃないのー？

なつ、そ、そんな訳ないでしょ！ 私は単純に、お兄さんのこと癒してあげようと…。

…え？ あつ…。

ふふ、はい、分かりました！

それじゃあ早速、お風呂場に向かいましょう、お兄さん！

おー、さっきまで死んだ魚の目だったお兄ちゃんに元気が…。

ふふふ、お兄ちゃんもやっぱり期待してるんじゃないのー？

お姉ちゃんにエッチなことしてもらえるぞーって。

もう、菜弥っ！

ふふふふふ。まあ、ゆっくりどうぞ…。のぼせないように気を付けなよ…。

んもう…さ、さあ、行きましょう、お兄さん。

え、えへへ…二人きりでお風呂なんて、ちよつと照れますね…。

前ラブホテルで菜弥と三人で入りましたが、その時とは少し違うドキドキというか…。

…そ、それじゃあお兄さん。早速、お背中を流すので…椅子に座ってもらっていいですか？

……はい、ありがとうございます。

それじゃあ、早速、ボディソープを手にと…と…。

…あ、スポンジですか？ はい、私は使っていません。いつも素手で洗っています。

力加減にもよりますが、スポンジだと肌を傷つけちゃう場合があるので…。

その点、素手なら肌に傷はつかないじゃないですか。

なので、お兄さんの身体もそうやって洗ってあげようと思ったんですけど…。

スポンジ、使った方がいいですか？

ふふっ、ありがとうございます。嬉しいです♪

では…ボディソープを、泡立てて、と…。

ん…こんな感じかな…それじゃあ、洗っていきますね…。

んっ…ふふ…お兄さんの背中…とっても大きい…それに、固い…。

茉弥の身体とかよく洗ってあげるんですけど…、

やっぱり、女の子とは身体の作りが。全然違いますね。

ん…んしょ…ん、んう…。

…ふふ。指で直接洗われるの…くすぐりたいですか？

だって…私の指が、お兄さんの背中をつうう…ってなぞるたび…。

ふふ、ほら…お兄さん、またビクンって身体震わせました。

…そういえばお兄さん…茉弥によく、いたずらでくすぐられたりしてますよね…。

…私、あれ…羨ましいなって思ってたんです。

…今(こ)で、シてもいいですか？ ふふふふっ……(ちよ)(ちよ)(ちよ)…。

ふふ、だめ…前向いていてください…背中、まだ流し終わってないので…。

ふふふふふふふふ…「ちよ」「ちよ」「ちよ」「ちよ」…。

はあ…ふふふつ…ん…？ ふふ…そうですね。

自分でも、色々と積極的になったなあって思います。

でも私、言ったじゃないですか。もう遠慮しないって。

私だって、お兄さんとイチャイチャしたいんですもん。

…こんな風に。

ほら…お兄さんの背中に…私のおっぱい…ぎゅううう…って押し付けちゃいます…。

それだけじゃないですよ…こうやって、おっぱいで…。

んっ、んふうっ…んっ…お兄さんの背中…洗ってあげます…。

いつも、茉弥ばかりお兄さんに甘えて…イチャイチャして…羨ましいなって思っていました…。

私だって、お兄さんに甘えたいです…お兄さんとイチャイチャしたいです…。

だから…もう遠慮なんてしませんから…全力で、お兄さんとイチャイチャします…♪

んっ、ふうっ、んんっ、んふうっ…お兄さん…私のおっぱい…感じて…。

乳首…背中に当たってるの、分かるでしょう…？

ん、んふう…私、もうエッチな気分になっちゃって…コリコリになっちゃってます…。

んふう…ふうっ…ふふ…そうですよ…私、エッチな子です…。

お兄さんや茉弥がいなときはオナニーだってするし…。

オナニーの時だって…お兄さんのこと考えながらシてます…。

お兄さんのおちんちん想像しながら…指でじゅばじゅば、おまんこ弄って…。

気持ちよくなってるんですよ…ん、んふうっ…

…あつ…お兄さんのおちんちん…大きくなっちゃってます…。

私のオナニー想像して…興奮しちゃいましたか…？

大きくなったおちんちん…私のあわあわの手で…触ってあげますね…。

んっ…ふふ…あわあわの手でし…し…されると…。

いつもより滑りが良くなって…おちんちん、気持ちいいですね…

ほら…ちゅこちゅこちゅこ…ちゅこちゅこちゅこ…

おっぱい押し付けられながらのぬるぬる手コキ…気持ちいいですね…

ねえ、お兄さん…もつと声、出してもいいんですよ…？

私に、お兄さんのエッチな声…沢山聴かせて…？

……いいですよ、茉弥に聴こえちゃっても。むしろ、聞かせてやりましょうよ…。

私達はラブラブなんだぞ…って…ふふふっ♪

…ん…？ ふふふ…茉弥に嫉妬？ まあ、勿論してましたし、今でも時々しますよ？

お兄さんと茉弥がイチャイチャしてるのを見ると、『むむむ…』ってなっちゃいます。

でもそれって、悪い意味じゃなくて…何て言うんだろうなあ…。

それで、茉弥を蹴落としてやろうだとか、お兄さんの浮気者…だとか、

そういうことは思わないんですよ。

私もイチャイチャしたい…、お兄さんとイチャイチャする…って、熱が入るというか…。

だって、私達は三人で恋人ですから…。

お兄さんと茉弥には仲良くしていて欲しいですし、ラブラブに越したことはありません。

…ただまあ、それはそれとして…ふふふっ…。

だからといって、お兄さんを独占したいって気持ちじゃゼロな訳ではないんですよ？

ごめんなさい、お兄さん…私のこと、多分真面目な子って思ってたと思うんですけど…

私、とっても悪い子です。ううん、悪い子になっちゃいました

…お兄さんのせいで…♪

ふふ…どうしたんですか、お兄さん？

さっきより声出ちゃってますよ…もしかして、今の一言で、余計興奮しちゃいましたか？

可愛い声…もつと聴かせて…お兄さん…。

ほら…おちんちんもつとし…いてあげますから…。

し…し…し…ちゅ…ちゅ…ちゅ…ちゅ…。

気持ちいい…気持ちいいですね、お兄さん…。

もつと、もつと気持ちよくなってくださいお兄さん…。

私のおっぱいとお手々まんこの感触感じながら…イって…イってくださいお兄さん…。

あつ、んああつ…気持ちいいのくる、くるくる、精子出るっ、イクイク、イクうつ…！

んっ…んんんっ…ーん、ふう…最後まで…出し切ってください…

んっ、んうつ…んんっ…んふう…。

…はあ…はあ…ふふ…気持ちよかったですか、お兄さん？

…ふふ、おめめ、トローンと蕩けちゃってますね。

でも、疲れを吹き飛ばすには、まだちよつと物足りないですかね？

それじゃあ…今度は…私のおっぱいで、お兄さんのおちんちん…気持ちよくしてあげます。

仰向けに寝てもらえますか？

んんっ…ふふふふっ…一回射精しても…おちんちん、まだまだ元気ですね…。

またすぐに大きくなってる…このエッチなおちんちんを…。

私のおっぱいで…挟んじやいます…ほら、いきますよ…んっ…。

んんっ…ふふふっ…おちんちん…ぶるぶるぶるっって震えました…。
お兄さん、おっぱい大好きですよねえ…んんっ。

このまま、ぐちゅぐちゅって動かしたら…最高に気持ちいいと思いますよ。

動かして欲しいですか？ 私に、パイズリ…してほしいですか？

…ふふふ、分かりました…それじゃあ…お兄さんのおちんちん…気持ちよくしてあげます…。

んっ、んふう…。

んんっ、んふう…。

さっきの手コキでついた泡が、まだ残ってるから…。

おっぱいが…凄く動かしやすいです…んんっ、んふう、んんっ…。

ふふ…お兄さん、気持ちよきそう…いっぱい感じてくださいね…。

たあくさん、おっぱい…動かしてあげますから…。

んふうっ…んう、んんんっ…んう、んんんんっ…。

はあ…おっぱいだけじゃなくて…お口でも…こ奉仕してあげます…。

んむうっ…。

んむうっ、じゅ、じゅるるっ…へちゅ、じゅ、ちゅる…ちゅうっ…。

んふ…おっぱいとお口の二点責め…とっても気持ちいいでしょっ？

…ああん、もう…お兄さん…腰、動かそうとしないでください。

もしかして逃げようとしていますっ…

…ああ、なるほど…。

いったばかりのおちんちんって、とっても敏感になってるんですね。

なら、いいじゃないですか♪ 敏感ってことは、気持ちいいってことですよ〜

じゃあ、今まで以上に沢山感じてくださ〜♪

そして…茉弥も聞いたことない様な甘い声…私に聞かせてくださ〜い…。

んぶ、じゅぶうっ…じゅるる…へちゅっ、ちゅぶ、じゅるるるっ…へちゅ、ちゅるっ…。

ほら…おっぱいで、竿全体をばぶぶって圧迫して…ずりゅずりゅっしていきながら…。

んむ…じゅぶ、ちゅるちゅる、れろおっ、れろろ…れる…じゅぶ、じゅるるるっ…。

裏筋を丁寧な舐め上げたり…んれろおっ…れろろ…じゅぶうっ…じゅるる…。

れろろ、ずりゅ、じゅぶっ、ちゅるる、んちゅっ、ちゅぶ、くちゅう…。

ん、はああっ…んぶぶ…どうですか、お兄さん…疲労感とか…少しは、解れてきましたか？

ぶぶ…お兄さんの疲れが、完全に溶け切っちゃうまで…続けてあげますからねえ…。

んむ、じゅぶ、ちゅるるっ、くちゅ、れろろ、れろおっ…。

んう…そういえばお兄さん…最近、ずうっと私と茉弥のおっぱい…見てましたよね？

ぶぶ…居候始めたての頃は、全然エッチな目で私達のこと見なかったのに…。

ううん、謝らなくていいですよお…むしろ、私嬉しいです…。

エッチな目で見てくれるってことは、女として見てくれてるってことだから…。

…まあ、流石に最近では、ちょっと見すぎかな〜って思いますけど…ぶぶぶっ…♪

んむっ、ちゅる、くちゅくちゅ、ちゅるるるっ、じゅぶ、ちゅっ、ちゅるる、ちゅっ…。

…ぶぶ、分かりますよ〜。

女の子って、意外と男の人のそういう目線に敏感だったりするんですからね？

まあ、私も茉弥も、おっぱいは結構大きめなので…

嫌でも視界に入っちゃうものなのかな〜って思ってますけど…。

んちゅむっ、ちゅぷうつ、じゅるる、くちゅ、ちゅぷうつ、ちゅうつ…。

…あ。あとお兄さん…よく茉弥の足も見てますよね。

茉弥、学校から帰ってくるとすぐストッキング脱いで裸足になるから…。

それをあんなに、ジーっと見つめて…本人は気づいてなかったみたいですけど、

私の眼は誤魔化せませんからね？ んむ、ちゅぷ、じゅるるっ、くちゅうつ…。

お兄さん、おっぱいだけじゃなくて足も好きなんですか？ んむ、ちゅぷ、ちゅうつ…。

ん…私も今度から、学校から帰ってきたらストッキング脱ごうかな…。

んちゅ、ちゅぷぷ、じゅるうつ、くちゅうつ、ちゅぷうつ、ちゅぷぷ…れろれろ…れろ…。

お兄さん…私達にシて欲しいことがあったら、何でも言ってくださいね？

前も言ったかもしれませんが、本当に私、お兄さんには何だっけシてあげたいので…。

それこそ、足でシて欲しいって思ったらシてあげますから…。

お兄さんの為なら、どんなことだって…。

んちゅ、ちゅぷうつ、じゅるる…こんなこと、当たり前ですけど…ちゅぷ、じゅるるる、くちゅ…。

他の人には、言わないですからね…ちゅぷ、ちゅうつ、ちゅる、ちゅうつ…。

お兄さんだから…大好きなお兄さんだから、言ってるんですよ…。

だから私…んむ、ちゅぷうつ、ぐちゅぐちゅ、じゅずずっ、ちゅぷうつ、ちゅるる、くちゅうつ…。

お兄さんになら…何でもしてあげたいし…何されてもいいって思うんです…。

んちゅ、ちゅぷうつ、じゅるうつ…お兄さん…大好き…大好きです…じゅるうつ、ちゅぷぷ…。

ずっとずっと大好きです。

だからお兄さんも、私のこと、ずっと好きでいてください。

約束ですよ？ 私のこと…私達のこと…ずっと愛し続けて…。

んむ、ちゅぶ、じゅるる、へちゅううっ、ちゅぶぶぶ……じゅるじゅる、れろれろ、んむう、ちゅう…。
ちゅへちゅへ、じゅるるるっ、へちゅ、ちゅぶぶうっ…。

んっ、んああっ…お兄さんの先っぱ…膨らんできて…。

あっ、あっ、いつちやいますか、お兄さん？ うん、いいですよ…。

イって…出して、出して…精子びゅるるって、出してへださる…。

はむっ、んぶ、じゅるるるっ、くちゅ、ちゅぶぶうっ、じゅるるる……じゅるるる、ちゅるるる…。

んちゅんちゅ、ちゅぶ、くちゅ、れろれろ、んちゅううっ、ちゅうっ、じゅるるるううっ…。

んううっ、んぶうう……んっ、へ、んくっ、んへっ、へっ……んへっ……はあ…。

…ご馳走様です、お兄さん♪

どうですか、お兄さん。疲れ…癒せました？

…あはは、余計疲れちゃいました？ ふふ、ごめんなさい…。

でもお兄さんの顔…なんだかさつきより明るくなってます。

やっぱり、エッチなことって沢山したほうがいいですね。ふふふっ。

じゃあ、すっきりもしたことですし…最後と一緒にお風呂に入って…。

のんびりしてから、上がりましょうか♪

■トラック9

ありがとう。

もう、何で卒業式の校長の話ってあんなに長いんだろうね。

おかげで滅茶苦茶、足が張っちゃったよ。

ふふ、お疲れ様。でも良かったね、ちゃんと卒業できて。

ちよ、お姉ちゃんそれどういう意味？

だって茉弥ってば、赤点常習犯だったじゃない。

留年もあり得るかもな〜、ってさりげなく心配だったんだから。

わるうごぎいきましたね、頭が悪くて。頭脳明晰なお姉ちゃんとは頭の出来が違うんですー。

だからあたしは、お姉ちゃんと違って就職を選んだの。もう勉強は沢山だから。

ふふ、うん、就職活動もお疲れ様。

茉弥…それにお兄さんも…なんだかごめんなさい…私だけ、大学に行きたいだなんて。

ワガママ言っちゃって…。

あたしはいいいから、お兄ちゃんにお礼言いなよ。

大学の入学金、お兄ちゃんが少し工面してくれたんですよ。

うん…お兄さん、本当にありがとうございます。

本当は、自分の力だけで何とかするつもりだったんですけど、

バイト代だけじゃどうしても足りなくて…。

私が今大学に通えているのも…全部全部お兄さんのおかげです。

学校に通えたり、卒業できたことはおろか…こうやって今生きているのだって、

ぜーんぶお兄ちゃんのおかげなんだよ。

そうです。お兄さんがあの日、私達に声を掛けてくれたから…

だから今私達はこうして、生きていられるんです。

お兄ちゃん、ありがとうね。

ありがとうございます、お兄さん。

それでさ〜？ お兄ちゃん。あたし、無事卒業できたわけじゃん？

だから、卒業祝いに欲しいものがあるんだ。

可愛い彼女の…うん、お兄ちゃんとはカレカノっていうか…もう家族だね。

そんな、愛する家族のお願い、聞いてくれる？

えっ、茉弥…今、言うの？

だってあたし卒業したんだよ。そういう約束だったでしょ、お姉ちゃん。

…う、うん…分かった。

お、お兄さんっ。私も…欲しいものがあるんです。聞いてくれますか？

あたし――。

私――。

お兄ちゃんの赤ちゃんが欲しい。

お兄さんの赤ちゃんが欲しい。

…お兄ちゃん、驚いてるね。

ずっと決めてたんだ。あたしが卒業したら、二人でお兄ちゃんにお願いしよう…って。

さっき、茉弥が、もう私達とお兄さんは家族みたいなものだって言いましたけど…。

私もそう思います。だから、家族としての関係をもっと深めたいんです…私達。

要するに、家庭を築こうってことだよ、お兄ちゃん。

はい…私達と、もっと家族になってくれませんか？ お兄さん…。

…えへへっ、お兄ちゃんならそう言うってくれるって信じてたよ。

嬉しいです、お兄さん…本当に私達、家族になれるんですね…。

じゃあ、お兄ちゃん…シよ…？ 赤ちゃん作るための、セックス…。

お兄さんの子種…私達のおまんこに、いっぱい注いでください…。

ん〜…せつかくだし、お兄ちゃんには二人同時に愛してほしいよね。

それって…二人一緒におちんちんいれてもらうってこと？ それは流石に…。

…あつ、そうだ。お姉ちゃん、ちよつと仰向けになつてもらえる？

え？ えつと…こ、これでいいの？

おっけー！ で、その上にあたしが…乗っかって…。

ほら…こ、こうすればさ…お兄ちゃん、あたし達と同時にセックスできるよ。

こ、これが姉妹丼ってやつ…？ うわ…滅茶苦茶エッチだね、これ…。

しかも、お姉ちゃんの顔も近くで見れて最高だね、これ。

やつ、ちよ、ちよつと…あんまり見ないでよお…。

にひひっ、お姉ちゃんかーわいい。

ふふ…というわけで…準備完了だよ、お兄ちゃん。

お兄ちゃんが良ければ…いつでもいれて…？

前戯とかいらないよ…あたし、もう期待で疼いて、おまんこ濡れてるから…。

私もです…さつきから、おまんこ熱くて仕方ないから…。

ください…お兄さんの…おちんちん…お兄さんの赤ちゃん…欲しいです…。

お兄ちゃん…きて…？

お兄さん…きて…？

んふうつ、んうつ、んんんんんううつ…！

ふふ、お兄さん…最初は茉弥から可愛がつてあげるんですね。

まあ、そうですよね。茉弥、今日は卒業したばかりでおめでたいですし…。

沢山可愛がつてあげてください…お兄さん。

んふうううっ、お兄ちゃんのおちんちん…おまんこに、入ってるううっ…！

はあっ、はあっ…ああんっ、もうっ…何回シても…お兄ちゃんとのセックス、大好きだよお。
はあ…はあ…好き…好き好き…お兄ちゃん、大好きい…。

ああっ…んあっ、あっ、あっ…あん、ああっ、んっ！

あんっ、あんっ、…はひっ、…ああっ、んあっ、ああっ！

はひっ、ああっ、んあっ、ああっ！

ふふ…茉弥、お顔とろとろになるの早いよ。

お兄さんのおちんちん、本当に大好きなんだね。

大好きっ、大好きいつ…お兄ちゃんのおちんちんも…。

お兄ちゃんのごことは、それ以上に大好きっ…お兄ちゃんの赤ちゃん産めるって思うと…。

興奮が止まらないの…身体の奥から熱くなって…お兄ちゃんのごことがもっと欲しくなる…。

お兄ちゃんっ…お兄ちゃんお兄ちゃんっ…お兄ちゃんっ…大好きいつ…。

ん、はあっ…茉弥、可愛い…。

お兄さん…そっちらじゃあまり見えないかもしれませんけど…。

今の茉弥、とっても可愛い顔してますよ…。

とろとろに蕩けて、すっごいエッチな顔してます。

んはあああうっ、んふうううっ、んうううっ…！

あっ、あっ…お兄ちゃんのおちんちん…奥まで、いっぱい届いてる…！

あたしの、乱れてる顔想像して…興奮したの…？

んっ、んふうううっ…おちんちん気持ちいいい、ううっ、くふううっ、んんんっ…！

んはあああうっ、はひっ、んっ、…ああっ、んあっ、あっ、あっ…あん、ああっ、んっ！

んあぁっ…、んっ、んっ…あぁっ、あっ、あっ、んんっ…はひっ、あぁっ、んあっ、あぁっ！
イキそうなんだね…。

ふふ、すっく気持ちよきぞうで…可愛い顔してる…。

うんっ、うんっ…あたし、もうイっちゃいそうっ…。

お兄ちゃんのおちんちん、すっく激しいんだもん…いつも以上にっ…へ、んうううっ…。

でも、激しいだけじゃなくて…同じくらい、愛情も感じるの…。

愛されてるなって…おちんちんから伝わってきて…っ。

あっ、あああぁっ…お兄ちゃんっ…お兄ちゃん…あたし、もうイっちゃうっ…。

イっちゃうイっちゃうっ、イっちゃううううっ、くぐぐぐうううっ、んうううううううう…！

ふふ、茉弥…いったんだね…可愛い…。

はぁっ…はぁっ…次は…お姉ちゃんの番だよ…。

あっ、くふ、んうううううううっ…！んっ、んふうううう…！

あは…お姉ちゃんの感じてる顔…こんなに間近で見るの、初めてかも…。

滅茶苦茶エッチじゃん…。

やつ、だ、だから…あんまり見ないでっばぁっ…。

んはあぁうっ…！んくっ、んうううううううっ…！

あっ、あああぁっ…！お兄さんの、おちんちん…んうううう…奥まで届いてっ…。

あぁっ、くふうっ、んううううう…！あぁっ、あああぁっ…奥、気持ちいいよおっ…。

あぁっ…んあっ、あっ、あっ…あん、あぁっ、んっ！

あぁっ、んあっ、あっ、あっ、んんっ、あっ、あっ…あん、

あんっ、あんっ、…はひっ、…あぁっ、んあっ、んっ、あっあっ、あぁっ！

うわー、お姉ちゃんのエッチしてる時の顔…めっちゃエロ…。

思わず見とれちゃうね…。

み、見ないでって…い、言ってるのに…！

んふううつ、くふ、んあああん…！。

ああっ、あっ、あっ、あっ、んふううつ、んく、ああっ、んあっ、んっ、あっあっ、

あんっ、あんっ、はひっ、ああっ、んあっ、ああっ！

さっきあたしの感じてるところ散々見てたくせにー

それで可愛いとか言っちゃってさ…お姉ちゃんの方が可愛いじゃん。

あたしより絶対に乱れてるし。

そ、そんなことないもんっ…んふううつ、んく、んうううううつ…！

はあっ、はあっ…お兄きあんっ…奥の方、挟られるの…好き、好きです…。

んううつ、んくうううつ…お兄さん、好き…好き好き…私も…お兄さんのこと大好き…。

愛してますうつ…。

んっ、ああっ、んあっ、あっ、あっ、あん、ああっ、んっ！

んふううつ、んく、ああっ、んあっ、んっ、あっあっ、ああっ、あああっ。

あ…もう…お姉ちゃん、可愛すぎだよ…。

そんな可愛い顔されたらさあ…あたしも、お姉ちゃんのこと犯したくなっちゃう。

ふえ…？ん——んううつ…！？ん、じゅぶ、ちゅるうつ、ちゅぶちゅぶ、じゅる、れろ…。

ま、茉莉…ま、待って…んう、ちゅぶうつ、じゅぶ、ちゅるるっ、くちゅ…。

れる…じゅぶちゅぶ、くちゅ、ちゅぶうつ、ちゅるるっ…。

んはあ…やだ…待たない…お姉ちゃんが可愛すぎるのがいけないんだもん。

あたし、お兄ちゃんと同じくらいお姉ちゃんのこと、家族として大好きだからよ。

そんなそその反応されたら、いたずらしたくなっちゃうって。

んむ、ちゅぷちゅぷ、じゅぷ、へちゅへちゅ、ちゅちゅ、ちゅぷみ、へちゅちゅ…。

んううっ、ま、茉弥…んむ、ちゅぷうっ、ちゅるる、くちゅ…。

い、今、だめっ…お兄さんのおちんちんで、おまんこ掻き混ぜられながら、こんな…。

んうっ、ちゅぷ、じゅぷうっ、ちゅぷぷ…キスされたらああっ…。

あんっ、んふうううっ…！ 私も、すぐイっちゃうよおっ…！

ん、んうっ…ちゅぷ、じゅぷ、ちゅううっ、ちゅぷぷ…へちゅくちゅ、ちゅちゅ…！。

んはあああっ…！ んうっ、んふ、んくううううっ…！

あっ、あっ、お、お兄さんのピストン…っ…一気に速くなったあっ…ああっ、んあああっ。

んふうっ、んうっ、んっ、ああっ、ああっ、んっ、んっ、んんんっ。

あはは、あたし達のレスプレイ見て、おちんちんイライラしちゃった？

安心して、好きっていうのは、家族としてって意味だから。百合的なあれじゃないからね。

恋愛の意味で好きなのは、お兄ちゃんだけだよ。

んっ、んふうううっ…！ 私も…恋愛の意味で、愛してるのは…お兄さんだけですっ…。

けど…お兄さんと同じくらいに…私も、茉弥のことが大好き…。

愛してるよ…茉弥のお姉ちゃんとして生まれてくることができて…本当に良かった…。

…お姉ちゃん、今それ言う…？

そんなこと言われたらあたし…我慢できなくなっちゃうじゃん。

んあっ、茉弥…んうううう、ちゅぷちゅちゅ、じゅちゅちゅ、ちゅぷちゅみ、へちゅっ、んちゅう。

ま、茉弥あっ…ちゅぷ、じゅるる、くちゅくちゅちゅ、ちゅちゅちゅ、んじゅう、ちゅうっ。

お姉ちゃんっ…ちゅっ、ちゅるるっ、くちゅっ…ちゅっ、じゅるるっ。

あたしも…お姉ちゃんの妹で良かったよ…大好き…大好きだからあつ…。

んう、ちゅっ、じゅるるっ、くちゅ、ちゅっ、じゅっ、くちゅっ、ちゅっ…。

んふうっ、んちゅっ、くちゅっ…！

ぷはっ、ああっ、んああっ…！ あっ、きてる、きてるっ…！

おまんこ来てるよおっ…！ あっ、ああっ…イクっ、イクイクっ、いつちゃうっ…！

お兄さん、私、いつちやいそうっ…！ おまんこくるっ、きちやうっ…。

んああっ、ああっ、んはああああっ…！

んうううっ…んふう…ふふ…お姉ちゃん…めっちゃ腰浮き上がったね…。

そんなに気持ちよかったんだ…。

はあ…はあ…うんっ…お兄さん…葉弥…二人とも…大好きい…。

うん…あたしも、お兄ちゃんのこと、お姉ちゃんのこと、世界で一番好きだよ。

えへへ…はあ…はあ…でも、お兄さん…まだ、私達のお願い、叶えてもらってません…。

お兄ちゃん、あたし達、お兄ちゃんの赤ちゃんが欲しいって言ったよね。

けどお兄ちゃんはまだ射精してない…だから…。

私達の中に、いっぱい射精してください…。

妊娠しちゃうくらい沢山…。

お兄さん…。

お兄ちゃん…。

んはああああっ…！

んううっ、んふうっ…！

うん、うんっ…お兄ちゃんっ…いっぱい出していいからね…お兄ちゃんの精液、
いっぱいあたしのおまんこの中に出してっ…！

ああっあああああっ！イっていいよ、お兄ちゃんっ…うん、イって、イってお兄ちゃんっ…
んふうううっ、ん、んうううっ、んんんんうう…！

んふうううっ…！ あっ、ああっ…お兄ちゃんの熱い精液…出てるよおっ…。

あたしのおまんこの中に…赤ちゃんの素おっ…。

お兄さん、私のおまんこの中にも…赤ちゃんの素おっ…。

あふうっ、んううううううう…！

ああっああっあああっ！

お、お兄さんっ…精液出してくださいっ…おまんこの中に精液くださいっ…。

お兄さんの赤ちゃん、産みたいんです…。

んうううっ、んくううううう…！

射精してください…出してくださいっ…おまんこにください、お兄さんの精液っ…。

んくううふう、んふうううっ、んっ、んうううううっ、んふううううう…！

んっ、んふうううっ、んんんんんっ…！ ああああっ…凄い量…。

おまんこの中に、お兄さんの精子…いっぱい、注がれてる、ううっ…くふふううっ…。

ほらあ…お兄ちゃん…もう一回…おちんちんちょうだい…いっぱい精子出してえっ…。

今日はずうーっと…お兄ちゃんの精子空っぽになるまでエッチしようね…♪

寝かせてなんて、あげませんから…くふふふふ…

はああっ…はあ…はあ…んふふ、いっぱい…エッチしたね…。

うん…もう何回中出しされたか…忘れちゃった…。

えへへ。これで二人とも、妊娠確定だね。

ふふ、そうだね。姉妹二人を妊娠させた責任…取ってくださいね、お兄さん？

そうどうぞ。これでポイって捨てたら、許さないからね。

…まあ、お兄ちゃんがそんなことするはずないって、あたしたち二人は分かってるけどね。

はい。あの日私達を拾って…愛情を沢山注いでくれたお兄さんなら…。

なんか、一生分の愛情をお兄ちゃんから注いでもらった感じ。

…あたし達さ、親があんなだったから…ずっと愛情に飢えていたのかも。

もう大人なんて誰も信用しない、

あたし達二人だけでも生きていつてやる…とか思ってた時期もあったけど…。

ふふ…やっぱり…心のどこかでは、誰かに甘えたいっていう欲求があったんでしょね。

嬉しいです、私…。

こんな風に、家族を感じることができて。

ふふふっ…そうだね…。

ねえ、これから三人…仲良くしていこーね。

お兄ちゃんのこととお姉ちゃんのこと…何年経っても、いつまでも大好きだよ。

そんなの、私だって同じだよ。

二人のこと、同じくらい大切。ずっと愛してる…。

…ふふふっ、お兄ちゃんも、あたし達のこと愛してるって。

言わなくても知ってますよ。だって私達は…。

そうだね。あたし達は…。

家族、なんだから。ふふふっ。

家族、なんだから。えへっ。

■トラック10

二人とも朝だよ。今日は家族全員でお出かけするって約束だったでしょ。

このままじゃお昼過ぎちゃうよ…。

起きて。ほら、あなた。…茉莉も。

んう…やだ…もう少しだけ寝かせて…。

お兄ちゃんもうちよつと寝てたいよねえ？

…ほら、お兄ちゃんも頷いてる。

んふふ…じゃあもつとぐっついて添い寝しよつかあ…。

お出かけはまた別日ってことにしよ…。

だーめ。起きなさいっ。

あーん、お姉ちゃんのいけずう…。

あなたも…そろそろ起きないと、お仕置きしちやいますよ？

いいんですか？

ふふ、はい、よろしい。

子供たちはとくに起きてるんだから、二人ともしっかりしてください

あつ、うん、今ご飯にするから、ちよつと待っててね…。

んんっ…んううう…はああ…。

ふふ、おはよ、お兄ちゃん、お姉ちゃん。

いやゝ、それにしても…お姉ちゃんもすっかりお母さんだねえ。

何、突然？ ていうか、茉弥だって立派なお母さんでしょ。

そうだけどきー。何か、母親が板についてるのはお姉ちゃんの方だと思わない？

おかんって感じ。ねえ、お兄ちゃん？

おかんって…、ちよつと、そこで頷かないでください、お兄さんっ…。

あっ…また癖でお兄さん、って…も、もう…いい加減、あなた呼びになれないと…。

別に無理に変える必要ないんじゃない？

あたしはずっとお兄ちゃんのままだし。

いや、そういうわけには…仮にも私達、夫婦なんだから…。

お兄さん、なんて、他人行儀でしょ？ お兄ちゃんならともかく。

あははっ、まあ確かに。

特にお姉ちゃんとお兄ちゃんは結婚して籍も入れてるしねゝ。

余計にそう感じちゃうかゝ。

…ねえ、茉弥？ 本当に良かったの？ お兄さんと結婚するのが、私の方で…。

茉弥だって、お兄さんと結婚したかったんじゃ…。

またその話ゝ？ それはもういいって何度も言ったじゃん。

あたし、結婚とか興味ないし、籍入れるか入れないかの違いしかないなら、

お姉ちゃんとお兄ちゃんが結婚したほうが良いって。

だって、結婚しようがしまいが、あたし達が家族ってことには変わりないでしょ？

それに…。

結婚してなくても、お兄ちゃんはあたしのこと愛してくれてるもんね？

っ…！ ちょ、茉弥…！ 近い、近いからっ。

子供たちも見てる…！

いいじゃーん。ねー、お兄ちゃん？

二人も将来は、お父さんみたいな男の人捕まえるんだよー

そして幸せになりなさい。

もう、気が早いってば茉弥…ふふっ、ふふふふっ…。

ん？ どうしたのお姉ちゃん、急に笑い出して。

ううん…なんか…とっても幸せだなあ…って思っ

…ふふ。確かに。考えられないよね…親の愛情が受けられないで育ったあたし達が…。

今はこんな風に幸せな家庭を築いてる。

うん…でもそれは、お兄さんが私達に愛情を注いでくれたから。

私達もお兄さんを…愛したから。

だから、こんなに温かい家族になることができたんだよ。

この子たちにも、これから沢山愛情を注いで育てていこうね。

お兄ちゃん、お姉ちゃん。

もちろん…私達三人も、ずっと仲良く…愛し合っ

…ふふ。まあ、お姉ちゃんはまず、お兄さん呼びから脱却するところからかな。

…あーっ、またやっちゃった！ もう…！

あはははっ…！ …おーっと、子供たちのお腹が限界みたい。

それじゃ、朝ごはんにしよっか！ 家族団らんで！

…うん、そうだねっ。ねえ、お兄さん…じゃなくて、あなた。

ふふふっ…ねえ、お兄ちゃん。

これからも、家族としてよろしくね♡

これからも、家族としてよろしくね♡

。っふふふっ

。っふふふっ